

G **F** ウエストミンスター寺院の鐘
 |ド ミ レ |ソ - -^v|ド レ ミ |ド - -^v|ミ ド レ |ソ - -^v|ソ レ ミ |ド - 0^v|

C	気を付け	C	礼	C	直れ		
	ドドドミソド		ソソシレ ⁷ ア		ドドドミソド		
	C		G7		C		
	ドドドミソド		ソソレ ⁷ アソシ		ドドドミソド	←	正式
	左 右						
	ド ミソド		ソ レ ⁷ アシ		ド ミソド	←	簡略

この他に下記もある。
 C⇒G⇒C
 C⇒F⇒C
 ソ⇒⁷レ⇒ソ⁷ でもいけそう。

ラソシドレミ⁷ソラドシ

シを上にとすると、きれいな音になるらしい。

G **F** おもいで
 |ミ レ ド |ソ - -^v|ド ソ ド |ミ - -^v|ド レ ド |ソ - -^v|ド ソ ミ |ド - -^v|

G **C** 4/4 120 むすんでひらいて みわたせば 戦闘歌 **90/100選** 文部省唱歌 ジャン=ジャック・ルソー (スイ) ☆
 |ミ ミレドド |レ レ ミレド^v |ソ ソ⁷アミ ミ |レドレミド -^v |ミ ミ⁷アソ ソ |ラ ラ ソ⁷ア ミ |ミ ミ⁷アソ ソ |ラ ラ ソ -^v |

む す-ん で ひ ら い-て 手 を-打-つて む-すんで - ま た-ひらいて 手 を 打-つて そ の-手 を う え に -
 み わたせ ば や - な-ぎ さ くらを - こきまぜて - み や-こ ぞ は - る- の に --し き なりけ る -
 見 渡 せ ば 寄 せ て 来 た る て き の 大 軍 面 白 や - ス - - ハ ヤ た た か- い は --じ - ま る ぞ -
 イ --デ ヤ ひ と び-と 攻 め 崩 せ 弾 込 め て - 撃 ち 倒 せ て - き- の た い-ぐ ん 撃 ち 倒 せ -

1752年の作。 歌劇⇒讃美歌⇒1881唱歌「見渡せば」⇒1895軍歌「戦闘歌」⇒1947童謡「むすんでひらいて」

C **G** 3/4 96 Happy Birthday to You Good Morning to all 不明 ヒル姉妹 7メカ
 |ソ ソラ ソ |ド シ -^v |ソ ソラ ソ |レ ド -^v |ソ ソソ ミ |ド シ ラ | - -^xソ⁷ソ⁷ |ミ ド レ |ド - -^v |

ハッピーバースデー トゥーユー - ハッピーバースデー トゥーユー - ハッピーバースデー オオさん - - ハッピーバースデー トゥーユー - -
 お た ん じょうびー お め で と う - お め で と オオさん - - お め で と う - -

世界で一番歌われている歌として、ギネスブックに載っている。

C **E** 4/4 150 私の青空 堀内敬三 ウォルター・ドナルドソン
 |0 ミ ソラド |ラ - - - | -^vド ミソラ |ソ - - - | -^vソ ラドミ |レ - - -^v |ミ - ミ - |レ ド - -^v |
 | -^vド ドド |ド シ シラ^x |ラ ソ ソラ |ソ ソラ - | - - -^xシ |シ ラ ラ ソ |ソ ソ ソ ソ |ソ ソ ソ -
 | -^vミ ソラド |ラ - - - | -^vド ミソラ |ソ - - - | -^vソ ラドミ |レ - - -^v |ミ - ミ - |レ ド - -^v |

夕暮れに 仰ぎ見る	When whippoorwills call	and evening is nigh	
輝く 青空	I hurry to my	Blue Heaven	昭和3年 大ヒット
日暮れて たどるは	A turn to the right	a little white light	アラビアの唄との
我が家の 細道	Will lead me to my	Blue Heaven	カップリングでレコード化
☆ 狭いながらも 楽しい我が家	I'll see a smiling face,	a fireplace, a cosy room	榎本健一
愛の灯影の さすところ	A little nest that nestles	where roses bloom	ミッチミラー合唱団
恋しい 家こそ	Just Molly and me	and baby makes three	
私の 青空	We're happy in my	Blue Heaven	

☆ 繰り返し

童謡・唱歌 123曲 (歌詞入り)

「童謡・唱歌213曲」の中から、さらに選んだ曲です。幼児向けの曲を減らしました。曲数を減らした代わりに、歌詞を載せました。

1	春の歌	6曲	9	子守唄	7曲	17	外国の歌1	5曲
2	夏の歌	6曲	10	母と子の歌	6曲	18	外国の歌2	7曲
3	秋の歌	6曲	11	友だちの歌	7曲	19	秋田民謡1	3曲
4	冬の歌	6曲	12	歌声喫茶の歌	6曲	20	秋田民謡2	3曲
5	雨の歌	6曲	13	日本の歌1	5曲	21	異曲合唱曲	4曲
6	花の歌	6曲	14	日本の歌2	6曲	22	おまけ	3曲
7	鳥の歌	7曲	15	日本の歌3	5曲			
8	動物の歌	7曲	16	日本の歌4	6曲			

曲の製作された年といきさつを、できるだけ調べました。結果、戦争の影の多さに驚かされました。

「日本の歌100選」の内、「童謡唱歌集213曲」には載せていない43曲です。

- 1 仰げば尊し 2 赤い靴 4 朝はどこから 5 あの町この町 9 いい日旅立ち 10 いつでも夢を
- 11 犬のおまわりさん 18 大きな古時計 22 朧月夜 23 思い出のアルバム 24 おもちゃのチャチャチャ
- 26 風 29 からのちの花 30 川の流れるように 31 汽車 32 汽車ポッポ 33 今日の日はさようなら
- 36 高校三年生 37 荒城の月 38 秋桜 39 この道 40 こんにちは赤ちゃん 41 さくら貝の歌
- 42 さくらさくら 46 叱られて 48 時代 50 ずいずいずっころばし 51 スキー 53 世界に一つだけの花
- 55 早春賦 57 小さい秋みつけた 61 翼を下さい 62 手のひらを太陽に 69 涙そうそう 70 夏の思い出
- 73 花 (喜納昌吉) 75 花の街 77 浜千鳥 81 ふじの山 86 牧場の朝 87 見上げてごらん夜の星を
- 94 椰子の実 101 われは海の子

「童謡唱歌集213曲」から削除した、「日本の歌100選」の18曲です。

- 8 あめふりくまのこ 13 うみ 17 大きな栗の木の下で 19 おかあさん 21 おはなしゆびさん
- 28 かもめの水兵さん 35 こいのぼり 43 サッチャン 54 ぞうさん 59 チューリップ
- 65 ドレミの歌 67 とんぼのめがね 68 ないしょ話 74 花 79 春が来た 89 虫の声
- 92 めだかの学校 95 夕日

注 100選ですが、実は101曲選ばれています。

須田喜久

この調で吹く。 春の歌 ☆印は讃美歌

正規の調

C G 4/4 88 どこかで春が 64/100選 百田宗治 草川信

ソ ミラソ ミ ソ ミラソ^V ドレ^V | 2/4 | ミ -ド | 4/4 | レ - - 0^V | ソ ミラソ ミ ソ ミラソ^V ドミ^V | 2/4 | レ -ミ | 4/4 | ド - - 0^V |

ミ -ソソ ミ ミ レドレ 0^V | ミ -ソソ ミ ミ レドレ 0^V | ソ ミラソ ミ ソ ミラソ^V ドミ^V | 2/4 | レ -ミ | 4/4 | ド - - 0^V |

どこかで春が 生まれてる どこかで水が流れだす どこかでひばりが 鳴いている どこかで芽の出る 音がする
山の三月 東風(こち)吹いて どこかで春が生まれてる

子供に理解できるように、春風とかそよ風とする場合も多い。 大正12年作詞。

G C 4/4 110 春の小川 80/100選 高野辰之 岡野貞一

ミ ソ ラ ソ | ミ ソ ド^V | ラ ラ ソ ミ | ドレ ミ -^V | ミ ソ ラ ソ | ミ ソ ド^V | ラ ラ ソ ミ | レ ミ ド -^V |

レ ミ レ ソ | ラ ラ ソ^V | ド^V ド シ ラ | ソ ソ ミ -^V | ミ ソ ラ ソ | ミ ソ ド^V | ラ ラ ソ ミ | レ ミ ド -^V |

1 春の小川は さらさらいくよ 2 春の小川は さらさらいくよ
岸のすみれや れんげの花に えびやめだかや 小ぶなの群れに
姿やさしく 色うつしく 今日もいちにち ひなたで泳ぎ
咲けよ咲けよと ささやきながら 遊べ遊べと ささやきながら

大正元年 第4学年用。
歌詞は2度変更された。
最新の歌詞は昭和22年のもの。

Am or C C#m 4/4 76 うれしいひなまつり 14/100選 サトウハチロー 河村光陽

ミ ミ ミ レ | ミ ミ ラ^V | ミ ミ ソソ | ミ - - 0^V | ド ド ド シ | ド ド ミ^V | シ シ ド シ | ラ - - 0^X |

ラ - ラ シ | ラ ソソ | ミ ミ ラ^V | ミ - - 0^V | ド - シ ラ | シ ド ミ ラ^V | ソ ソ ド シ | ラ - - 0^V |

1 あかりをつけましょ ぼんぼりに 2 お内裏様と おひな様 3 金の屏風に うつる灯を 4 着物を着かえて 帯しめて
お花をあげましょ 桃の花 二人ならんで すまし顔 かすかにゆする 春の風 今日わたしも はれ姿
五人ばやしの 笛太鼓 お嫁にいらした ねえ様に すこし白酒 めされたか 春のやよいの このよき日
今日はたのしい ひな祭り よく似た官女の 白い顔 赤いお顔の 右大臣 なによりうれしい ひなまつり

昭和10年作詞 昭和11年作曲。

G D 3/4 106 背くらべ 52/100選 海野厚 中山晋平

ドドレ ミ | ソラソ ミ^V | ララド^V ラ | ソ - 0^V | ドラド | ソラソ^V ド | ミソミ^V レ | ド - 0^V |

ドドド | レド^V ソ | ミレド^V レ | ミ - 0^V | ソラソ^V ソ | ラド^V ド | ソミレ^V ミ | ド - 0^V |

レレレ | ミソミ^V レ | ドレミ^V レ | ソ - 0^V | ミソラ | ドレド^V ラ | ソソラ^V ソラ | ド - 0^V |

1 柱の傷はおとしの 五月五日のせいくらべ 2 柱にもたれりやすぐ見える 遠いお山もせいくらべ
ちまきたべたべ兄さんが 計ってくれたせいのおかげ 雲の上まで顔出して てんでに背伸びしていても
きのうくらべりゃ何のこと やっと羽織の紐のかけ 雪の帽子を脱いでさえ 一はやっぱり富士の山

C F 4/4 96 鯉のぼり 文部省唱歌 弘田龍太郎

ドレミソソ^V -^V | ミソソソ^V -^V | ドレミソソ^V | レ - - 0^V | ドレミソソ^V -^V | ミソソソ^V -^V | ドレミソソ^V | ソ - - 0^V |

ミ ミ ミ -^V | ドレミソソ^V -^V | ソ^V ドレド^V | ミ - - 0^V | ラ - ソ ソ | ミソソソ^V -^V | ソ^V ドレミ^V -^V | ド - - 0^V |

1 雲の波と 雲の波 2 開ける広き その口に 3 百瀬の瀧を 登りなば
重なる波の 中空を 船をも呑まん 様見えて たちまち龍に なりぬべき
橋かおる 朝風に 豊かに振るう 尾ひれには わが身に似よや 男子と
高く泳ぐや 鯉のぼり 物に動ぜぬ 姿あり 空に躍るや 鯉のぼり

大正2年 第5学年用。
屋根より高い〜と歌う「こいのぼり」という曲もある。

C G 4/4 104 茶摘み 58/100選 文部省唱歌 文部省唱歌

0 ソ ド レ | ミ -ミミ^V | ソ -ソソ^V | レドレ -^V | 0 ミ ミ ソ | ミ -ミレ^V | ミ -ミレ^V | ラ ラ ソ -^V |

0 ソ ド レ | ミ -ミミ^V | ソ -ソソ^V | レドレ -^V | 0 ソ ソ ミ | レ -レド^V | ソ ドレ -ミ^V | ド - - 0^V |

1 夏も近づくと 八十八夜 2 日和つづきの 今日この頃を
野にも山にも 若葉が茂る 心のどかに 摘みつつ歌う
あれに見えるは 茶摘みじゃないか 摘めよ摘め摘め 摘まねばならぬ
あかねだすきに 菅の笠 摘まにゃ日本の 茶にならぬ

八十八夜は、立春より数える。
平年なら5月1日が多い。
立春は、2月4日が多い。

G B 6/8 140 みかんの花咲く丘 88/100選 加藤省吾 海沼実

ソ - ソ | ミ - ソ | ソ - ラ | ソ - -^V | ド シ レ | ド - ラ | ソ - - | - - 0^V |

ラ - シ | ド - レ | ド - ラ | ソ - -^V | ラ - ソ | レ ソ ミ | ド - - | - - 0^V |

ミ - ミ | ド - レ | ミ - ソ | ソ - -^V | ド - ソ | ド - ミ | レ - - | - - 0^V |

ミ - ソ | ミ レ ド | ラ - ソ | ド - -^V | レ - ミ | レ - レ | ド - - | - - 0^V |

1 みかんの花が 咲いている 2 黒い煙を はきながら 3 何時か来た丘 母さんと
思い出の道 丘の道 お船はどこへ 行くのでしょう 一緒に眺めた あの島よ
はるかに見える 青い海 波に揺られて 島のかげ 今日ひとりで見ていると
お船がとおい 霞んでる 汽笛がぼうと 鳴りました やさしい母さん 思われる

5月初旬に咲く。
白く小さく肉厚。

G C 4/4 72 夏は来ぬ 71/100選 佐々木信綱 小山作之助

ソ ミソソ^V -^V | ラドソレド^V | ラ ドラソ^V -^V | ラレソミドレ^V | ド ミ ソ -^V | ラソラド^V | ソ | ド -ミレ^V | ド - - 0^V |

1 卵の花の 匂う垣根に 2 さみだれの そそぐ山田に 3 たちばなの 薫るのきばの
ほととぎす 早も来鳴きて さおとめが もすそめらして 窓近く 蛍飛びかい
しのびねもらす 夏は来ぬ たまなえ植うる 夏は来ぬ おこたりにさむる 夏は来ぬ

4 おうちちる 川べの宿の 5 さつきやみ 蛍飛びかい
門遠く くいな声して くいな無き 卵の花咲きて
夕月すずしき 夏は来ぬ 早苗植えわたす 夏は来ぬ

明治29年作。
おうちとはせんだんのこと。

卵の花とは
ウツギのこと。
5~7月白い花。
アジサイ科。
タニウツギは別種。

G C 4/4 ほたる 井上尠 下総院一

ド -ラソ^V ソ | ラ ソ ミ -^V | ソ -ソラ^V ソ | ミ ミ レ -^V | ド -ドミ | ソ -ソミ^V | ソ -ソラ^V | ラドド^V |

ド -ド^V | ソ ソ ミ ソ^V | ラ -ラソ^V | レドレ -^V | ソ 0 ソ 0 | ラ ソ ミ ソ^V | ラ -ソラ^V | ド - - 0^V |

1 ほたるの宿は 川ばたやなぎ 2 川風そよぐ やなぎもそよぐ 3 川原のおもは さつきの闇夜
やなぎおぼろに 夕やみよせて そよぐやなぎに ほたるがゆれて かなたこなたに 友よびつどい おも の意味は?
川のめだかが 夢見るころは 山の三日月 かくれるころは むれてほたるの 大まり小まり
ホ ホ ほたるが 灯をともし ホ ホ ほたるが 飛んで出る ホ ホ ほたるが 飛んで行く

G C 2/4 108 ほたるこい 秋田のわらべうた

ラ 0 ラ 0 | ラ ソソラ^V 0^V | ラ ラララ^V シシ | ラ ラソミ^V 0^V | ラ ラララ^V シシ | ラ ラソミ^V 0^V | ラ 0 ラ 0 | ラ ソソラ^V 0^V |

ホ ホ ほたるこい あっちのみずはにがいぞ こっちのみずはあまいぞ ホ ホ ほたるこい

蛍は食べない。
水も飲まない。
夜露を飲むだけ。

C F 2/4 126 たなばたさま 権藤はなよ 下総院一

ソ ソ ドレ | ミ ミミ^V -^V | ミ ソ ソ ミ | ド ミ レ -^V | ミ ミミ^V ソ ミ | レ ドドラ^V | ドラソド | レ ミ ド -^V |

1 ささの葉さらさら のきばにゆれる 2 五色のたんざく わたしがかいた
お星さまきらきら きんぎん砂子 お星さまきらきら 空から見てる

昭和16年 2年生用。

C F 4/4 岳人の歌 不詳 不詳

ソド | ミ レドレ^V | ド -ララ^V 0^V | ソ ドミソ^V | レ - 0^V | ソド | ミ レドレ^V | ド -ララ^V 0^V | ソ ドミレ^V | ド - 0^V |

ラ -ラソ^V | ソソ ミソ^V | ド -ドドド^V | レ - 0^V | ソド | ミ レドレ^V | ド -ララ^V 0^V | ソ ドミレ^V | ド - 0^V |

1 星が降るあのコール グリセードで 2 白樺にもたれるは いとし乙女か
あの人は来るかしら 花をくわえて あの黒百合の花を 胸にいだいて
アルプスの恋唄 心ときめくよ アルプスの黒百合 心ときめくよ
なつかしの岳人 やさしかのきみ なつかしの岳人 やさしかのきみ

山男山女の間では有名な曲。
黒百合の花には悪臭がある。
花も、きれいとは言えない。

G **C** 2/4 80 どんぐりころころ 66/100選 青木存義 梁田貞
 ソ ミミ[♯]ミレド | ソ ミミレ 0[♯] | ミミソソラ0ラ | ド ミミソ 0[♯] | ソソミミ[♯]ミレド | ソ ミミレ 0[♯] | ソ ミミラソソ | ララシンド 0[♯] |

- 1 どんぐりころころ どんぶりこ
お池にはまって さあ大変
どじょうがでてきて こんにちは
ぼっちゃん一緒に 遊びましょう
- 2 どんぐりころころ 喜んで
しばらくいっしょに 遊んだが
やっぱりお山が 恋しいと
泣いてはどじょうを 困らせた
- 大正時代に作られ、
昭和22年 小学校用の教科書に
載せられ、広まった。

G **C** 2/4 65 夕焼け小焼け 96/100選 中村雨紅 草川信
 ソ ソ ソ ラ | ソ ソ ソ ミ[♯] | ド ド レ ミ | レ - - 0[♯] | ミ - ミ ソ | ラ ド ド ラ[♯] | ソ ソ ラ ソ | ド - - 0[♯] |
 ド -レド ラ | ド ド ソ ソ[♯] | ラ ソ ラ ソ | ミ - - 0[♯] | ソ ミ レ ド | レ レ ド レ[♯] | ミ ソ ラ ソ | ド - - 0[♯] |

- 1 夕焼け小焼けて 日が暮れて
山のお寺の 鐘がなる
おてつないで みなかえろう
カラスといっしょに かえりましょう
- 2 子供が帰った あとからは
まるい大きな お月さま
小鳥が夢を 見るころは
空にはきらきら 金の星
- 大正8年 作詞。
大正12年 作曲。

C **F** 2/4 48 野菊 石森延男 下総院一
 ミ - ミ レ | ド ミ ソ ソ[♯] | ラ ラ ソミド | レ - - -[♯] | ミ ミ ミ レ | ド ミ ソ -[♯] | レ ソ ミレド | ラ - - -[♯] |
 ソ ドレミ ラ | ソ ミ ド -[♯] | レ -ミソ ラ | ド - - -[♯] | ド -ドドレ | ミ ド レ -[♯] | ミ -ラソ ミ | レ ミ ド -[♯] |

- 1 遠い山から 吹いてくる
小寒い風に ゆれながら
気高く清く におう花
きれいな野菊 うすむらさきよ
- 2 秋の日差しを あびてとぶ
とんぼをかるく 休ませて
しずかに咲いた 野辺の花
やさしい野菊 うすむらさきよ
- 3 霜が降りても まけないで
野原や山に むれて咲き
秋の名残を 惜しむ花
あかるい野菊 うすむらさきよ
- 昭和17年
開戦の翌年
教科書に載った。

C **F** 4/4 92 紅葉 93/100選 高野辰之 岡野貞一
 ミ レドレ ミ | ド - ソ -[♯] | ド シドレ ソ | ミ レドレ 0[♯] | ミ レドレ ミ | ド - ソ -[♯] | ド シドレ ソ | ミ レド 0[♯] |
 ソ ミ[♯]ソ ラ | ソ - ミ -[♯] | ソ ラソミ レド | レ ミ レ 0[♯] | ソ ラソミ レ | ド - ソ -[♯] | ド シドミ レ | ド - - 0[♯] |

- 1 秋の夕日に 照る山もみじ
濃いも薄いも 数ある中に
松をいろどる 楓や蔦は
山のもふとの 裾模様
- 2 涙の流れに 散り浮くもみじ
波にゆられて はなれて寄って
赤や黄色の 色さまざまに
水の上にも 織る錦
- 明治44年 尋常小学唱歌二にて発表。
- 輪唱

C **F** 3/4 72 赤とんぼ 3/100選 三木露風 山田耕筰
 ソドド -レ | ミソドラソ[♯] | ラドド レ | ミ - 0[♯] | ミラソ -ラ | ドラソラソミ[♯] | ソミドミレド | ド - 0[♯] |

- 1 夕焼け小焼けた 赤とんぼ
負われて見たのは いつの日か
- 2 山の畑の 桑の実を
小籠に摘んだは まぼろしか
- 3 十五で姐やは 嫁に行き
お里のたよりも 絶えはてた
- 4 夕焼け小焼けた 赤とんぼ
とまっているよ 竿の先
- 大正10年作詞 昭和2年作曲。

C **F** 4/4 80 里の秋 44/100選 斉藤信夫 海沼実
 ソ -ミラソミレ | ド ラドソ -[♯] | ラ -ラソ ドレ | ミ - - 0[♯] | ソ -ミラソミレ | ド ラドソ -[♯] | ソ -ラソミレ | ド - - 0[♯] |
 レ -ドミ レ | ド レミソ -[♯] | ラ -ラミ ソラ | ソ - - 0[♯] | ラ -ラソ ミレ | 0ドレ[♯]ミ ド | 0レミド[♯]ラ ソラ | ド - - 0[♯] |

昭和20年NHKが引き上げ者を励ますラジオ番組用に作った。 星月夜という詩の、3番と4番を削除し新たに3番を追加した。

- 1 しずかなしずかな 里の秋
おせどに木の実の 落ちる夜は
ああ かあさんと ただ二人
栗の実煮てます いろりばた
- 2 あかるいあかるい 星の空
鳴き鳴き夜鴨の 渡る夜は
ああ とうさんの あの笑顔
栗の実食べては 思い出す
- 3 さよならさよなら 椰子の島
お舟にゆられて 帰られる
ああ とうさんよ ご無事でと
今夜もかあさんと 折ります
- 旧3 きれいなきれいな 椰子の島
しっかり護って 下さいと
ああ父さんの ご武運を
今夜も一人で 折ります
- 旧4 大きく大きく なったなら
兵隊さんだよ うれしいな
ねえ母さんよ 僕だって
必ずお国を 護ります

G **C** 2/4 88 たき火 56/100選 巽聖歌 渡辺茂
 ソ ラ ソ ミ | ソ ラ ソ ミ[♯] | ド レ ミ ミ | レ - - -[♯] | ミ ソ ソ ソ | ラ ド ド ド[♯] | ソ ラ ミ レ | ド - - -[♯] |
 レ - - ミ | [♯]ミ レ -[♯] | ミ ソ ソ ミ | ソ - - -[♯] | ド ド ド ラ | ソ ソ ド ド[♯] | ミ ミ レ レ | ド - - -[♯] |

- 1 垣根の垣根の 曲がり角
焚き火だ焚き火だ 落ち葉炊き
あたらうか あたらうよ
北風ぴいふう 吹いている
- 2 山茶花山茶花 咲いた道
焚き火だ焚き火だ 落ち葉炊き
あたらうか あたらうよ
しもやけお手々が もうかゆい
- 3 木枯らし木枯らし 寒い道
焚き火だ焚き火だ 落ち葉炊き
あたらうか あたらうよ
相談しながら 歩いている

昭和16年12月9日、NHKで放送されるが、数日だけで中止。 8日、真珠湾攻撃が行われたため。
戦後、あらためて放送される。

G **C** 4/4 48 上見れば虫っこ 秋田のわらべ歌
 ラ ラ ラ ソソ | ラ ラ ラ 0[♯] | ミ ソ ミ ミミ | ラ ラ ラ 0[♯] | ラ ラ ラ シラ | ソ ソ ソ 0[♯] |

- 上見れば虫っこ 中見れば綿っこ 下見れば雪っこ
(山間部の場合)
- 上見れば何も見えね 中見でも何も見えね 下見ただで何も見えね
(沿岸部の場合)
(猛吹雪の夜、ガードレールにこすった事があります。)

C **F** 2/4 92 雪 97/100選 文部省唱歌 文部省唱歌
 ソ ラ ソ ラ | ソ 0 ミ 0[♯] | ミ [♯]ミ ミ [♯]ミ | ミ 0 ド 0[♯] | ミ 0 ドレ | ミ 0 ドレ | ミ [♯]ソ ソ | レ - ミ レ[♯] |
 ソ ラ ソ ラ | ソ ソ ミ ミ[♯] | ミ [♯]ミ ミ [♯]ミ | ミ ミ ド 0[♯] | ラ - ソ ミ | ソ ソ ミ ド[♯] | ミ ミ レ レ | ド - 0 0[♯] |

- 1 雪きやこんこ あられやこんこ
降っては振っては ずんずん積もる
山も野原も 綿帽子かぶり
枯れ木残らず 花が咲く
- 2 雪きやこんこ あられやこんこ
降っても降っても まだ降り止まぬ
犬は喜び 庭駆けまわり
猫はこたつで 丸くなる
- 明治44年 尋常小学唱歌2に初出。

C **G** 3/4 100 冬景色 82/100選 文部省唱歌 文部省唱歌
 ド ミ ソ | ソ -[♯]ミ[♯] | レ -ミレシ | ソ - 0[♯] | ソ シレ | ミ -レド[♯] | ミ -レドシ | ド - 0[♯] |
 レ - ソ | ドレミ[♯]ソ[♯] | ラ -ソ[♯]ミ | レ - 0[♯] | ミ レド | ソ -ラソ[♯] | ミ -レドシ | ド - 0[♯] |

- 1 さ霧消ゆる 湊江の
舟に白し 朝の霜
ただ水鳥の 声はして
いまだ覚めず 岸の家
- 2 烏啼きて 木に高く
人は畑に 麦を踏む
げに小春日の のどけしや
かへり咲きの 花も見ゆ
- 3 嵐吹きて 雲は落ち
時雨降りて 日は暮れぬ
もし灯火の 漏れ来ずば
それと分かじ 野辺の里

C **G** 4/4 84 冬の夜 文部省唱歌 文部省唱歌
 ド -ミミ レド | ソ -ラソ ド[♯] | ミ -ソソ ミド | レ -ミレ 0[♯] | ソ -ラソ ドレ | ミ -ミレ ド[♯] | レ -ソレ レ | レ -ミド 0[♯] |
 レ -ミレドシラ | ソラシ0レミレ0[♯] | ソ -ミ[♯]ミレド | シドレミド 0[♯] |

- 1 灯火近く 衣縫う母は
春の遊びの 楽しさ語る
居並ぶ子供は 指を折りつつ
日数かぞえて 喜び勇む
囲炉裏火は とろとろ
外は吹雪
- 2 囲炉裏の端に 縄なう父は
過ぎし昔の 思い出かたる
居並ぶ子供は 眠さを忘れて
耳を傾け こぶしを握る
囲炉裏火は とろとろ
外は吹雪
- (過ぎし戦の 手柄を語る)
- 元の歌詞

明治45年
尋常小学唱歌3。
明治27年7月~28年3月 日清戦争。
明治37年2月~38年9月 日露戦争。

C **G** 2/4 84 春よ来い 相馬御風 弘田龍太郎
 ミ - ミ レ | ミ - - 0[♯] | レ - レ ド | レ - - 0[♯] | ド ド レ ド | ラ ラ ラ ラ[♯] | ド ド ラ ラ | ソ - - 0[♯] |
 ラ ラ ド ラ | ソ ソ ソ ソ[♯] | ラ ラ ソ ソ | ミ - - 0[♯] | ソ ソ ド ド | ミ ミ レ ド | レ - レ ミ | ド - - 0[♯] |

- 1 春よ来い 早く来い
歩き始めた みいちゃんが
赤い鼻緒の じょじょはいて
おんもへ出たいと 待っている
- 2 春よ来い 早く来い
おうちの前の 桃の木の
蕾もみんな ふくらんで
はよ咲きたいと 待っている
- 大正12年3月 発表。

雨の歌

Am or C Dm 2/4 64 雨 北原白秋 弘田龍太郎
ラーラシ | ドードシラ | ミーニミフ | ミーー0 | ミーニミフ | ラーララ | レミフ | シーー0

1 雨が降ります 雨が降る 遊びにゆきたし 傘はなし 紅緒のかっこも 緒が切れた
2 雨が降ります 雨が降る いやでもおうちで 遊びましょう 千代紙おりましょ たたみましよう
3 雨が降ります 雨が降る けんけん小きじが 今啼いた 小きじも寒かる 寂しかろ

4 雨が降ります 雨が降る お人形寝かせど まだ止まぬ お線香花火も みな焚いた
5 雨が降ります 雨が降る 昼も降る降る 夜も降る 雨が降ります 雨が降る

大正7年 作詞。
大正8年 作曲。

G C 3/4 82 雨降りお月 7/100選 野口雨情 中山晋平
ドレミ ラ | ソレドレ | ミレドレミラ | ソー0 | ミソラ ド | レレミ ド | レドソ ラド | レー0 |
ドミレドラ | ソラド ソ | ラソミ レ | ドー0 | レレソ レ | ミレド レ | ミレド レミ | ソー0 |
ラソラドレミ | レドラ ソ | ドドド ラソ | ミー0 | ドレミ ソ | ミソド ラソ | ミミミ レ | ドー0 |

1 雨降りお月さん 雲の蔭 傘ないときや 誰とゆく 急がにやお馬よ 夜が明けよ お袖は濡れても 干しゃ乾く
お嫁にゆくときや 誰とゆく シヤシヤ シヤシヤ 鈴付けた 手綱の下から ちょいと見たりや 雨降りお月さん 雲の蔭
ひとりて傘 させてゆく お馬にゆられて 濡れてゆく お袖でお顔を 隠してる お馬にゆられて 濡れてゆく

大正14年 発表。
雨降りお月さん1番
+雲の蔭2番
=雨降りお月

G C 2/4 92 あめふり 6/100選 北原白秋 中山晋平
ドド | ドレ | ミレ | ソミ | ドラ | ソミ | ソー0 | ドド | ドレ | ミソ | ララ | ミミ | ミレ | ドー0 |
ド | ドラ | ソミ | ソミ | ソ0 | ド0 | ドー0 |

1 雨雨降れ降れ 母さんが 蛇の目でおむかい うれしいな ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン
2 かけましょかばんを 母さんの あとからゆこゆこ かねがなる 同上
3 あらあらあのこは ずぶぬれだ やなぎのねかたで ないている 同上
4 母さんぼくのを かしましょか きみきみこのかさ さしたまえ 同上
5 ぼくならいいんだ 母さんの 大きな蛇の目に 入ってく 同上

大正14年 発表。

G D 4/4 72 かたつむり 文部省唱歌 文部省唱歌
ソーソソ | ミ | ドードド | レ | ミーニレ | ド | レー0 | ミーニソ | ラ | ソーソソ | ミ | レーレ | ド | ミー0 |
ソ | ド | ソ | ミ | ソ | ソ | ミ | ド | ミ | ミ | レ | ド | ー | 0 |

1 でんでんむしむし かたつむり おまえのあたまは どこにある つのだせ やりだせ あたまだせ
2 でんでんむしむし かたつむり おまえのめだまは どこにある つのだせ やりだせ めだまだせ

明治44年作。
つのはやり=恋矢?
雌雄同体

C F 2/4 88 カエルの合唱 岡本敏明 ドイツ民謡
ドレ | ミ | フ | ミ | レ | ドー | ミ | フ | ソ | ラ | ソ | フ | ミ | ー | ド | 0 | ド | 0 |
ド | 0 | ド | 0 | ド | 0 | ド | 0 | ド | 0 | ド | 0 |

かえるのうたが きこえてくるよ クワ クワ クワ クワ ゲゲゲゲゲゲゲ クワ クワ クワ

昭和22年 訳詞。

C E 4/4 山賊の歌 田島弘 小島祐嘉
ソ | ラー | ラ | ミ | ドレ | ミー | レー | レ | レー | ドレ | ミー | ソ | ミ | レー | ド | ド | ー | ソ | ド | ー | ソ |
ラー | ラ | ミ | ドレ | ミー | ソ | ミ | ソー | ソ | ミ | ソー | ミ | シー | ソ | ミ | レ | ラ | ー | ソ | ド | ー | 0 |

1 雨が降れば 小川が出来 風が吹けば 山が出来る ヤッホー ヤホホホー 淋しい ところ ヤッホー ヤホホホー 淋しい ところ
2 夜になれば 空には星 月が出れば オイラの世界 ヤッホー ヤホホホー みんなを 呼べ ヤッホー ヤホホホー みんなを 呼べ
3 肩を組んだら 明りを付けろ 眠いカラスは 起こすじゃないぞ ヤッホー ヤホホホー 夜明けは まだだ ヤッホー ヤホホホー 夜明けは まだだ
4 お天道さが 東に出れば 西の空に 雲がすっ飛ぶ ヤッホー ヤホホホー おいらは山賊 ヤッホー ヤホホホー おいらは山賊
5 風が吹けば 波が立ち 波が立てば 船が沈む ウッシー ウシシシー 他人の 物は ウッシー ウシシシー オイラの 物さ

人形劇の挿入歌。作者不詳のまま、山男に広まった。 輪唱

花の歌

G ANm 4/4 ひらいたひらいた わらべ歌
ラーラソ | ララソ | ラソソ | ララソ | ララソ | ララソ | ララソ | ララソ |
シ | シレ | シシ | ラー | シラ | ソー | ラー |

1 ひらいたひらいた なんの花がひらいた れんげの花がひらいた ひらいたと思ったら いつのまにか つーぼんーだー
2 つぼんだつぼんだ なんの花がつぼんだ れんげの花がつぼんだ つぼんだと思ったら いつのまにか ひーらいーたー

Am or G Am 4/4 72 さくらさくら 日本古謡
ララシ | ララシ | ラシド | シ | ラシ | ラー | ミド | ミフ | ミミ | ドシ | ラシ | ラー |
ミド | ミフ | ミミ | ドシ | ララシ | ララシ | ミフ | シラ | ミー | 0 |

さくらさくら やよいの空は 見渡す限り かすみか雲か 匂いぞ出する いざやいざや 見にゆかん
さくらさくら 野山も里も 見渡す限り かすみか雲か 朝日におう さくらさくら 花ざかり

昭和16年に作られた詩。
こちらだけを載せている教科書もあるし、
こちらを1番として、
両方載せている教科書もある。

Am+ or C ENm 4/4 忘れな草をあなたに 木下竜太郎 江口浩司
ミ | ラララ | シ | ドドド | ド | レ | レ | シ | ラ | シ | ー | 0 | ミ | ラ | ララ | シ | ド | ド | ド | ド |
フ | ー | ミ | レ | ソ | フ | ミ | ー | ド | ー | シ | ラ | シ | ラ | シ | ラ | フ | ー | ー | 0 |

1 別れても 別れても 心の奥に いつまでも いつまでも おぼえておいて ほしいから しあわせ祈る ことばにかえて 忘れな草を あなたに あなたに
2 いつの世も いつの世も 別れる人と 会うひとの 会う人の 定めは常に あるものを ただ泣きぬれて 浜辺につんだ 忘れな草を あなたに あなたに
3 喜びの 喜びの 涙にくれて いだきあう いだきあう その日がいつか くるように 二人の愛の 思い出そえて 忘れな草を あなたに あなたに

昭和39年のリリース。

Am or C Em 6/8 あざみの歌 横井弘 八州秀章
ミ | ミ | ラ | ミ | ド | シ | ラ | フ | ミ | ー | ー | 0 | ド | フ | ミ | ー | ド | シ | ド | シ | ラ | フ |
レ | レ | ミ | ミ | ラ | フ | フ | ミ | ラ | フ | ミ | レ | ミ | ー | ー | 0 | ド | シ | ラ | フ | ミ | ド | シ | ラ | フ |

1 山には山の 愁いあり 海には海の かなしみや ましてこころの 花園に 咲きしあざみの 花ならば
2 高嶺の百合の それよりも 秘めたる夢を ひとすじに ぐれない燃ゆる その姿 あざみに深き わが想い
3 いとしき花よ 汝はあざみ ころの花よ 汝はあざみ 定めは 果てなくも 香れよせめて わが胸に

昭和20年、18歳で復員してきた横井が理想の女性像を描いた。

Am or C Em 6/8 126 月見草の花 山川清 山本雅之
ミ | ミ | ミ | フ | ミ | ド | シ | ラ | シ | ド | シ | ラ | ミ | ー | ー | 0 | ラ | フ | フ | レ | ミ | ミ | ミ | フ |
レ | レ | ミ | フ | ラ | フ | フ | ミ | ミ | フ | ミ | ド | シ | ミ | ー | ー | 0 | ラ | フ | フ | レ | ミ | ミ | ミ | フ |

1 はるかに海の 見える丘 月のしずくを 吸って咲く 夢のお花の 月見草 花咲く丘よ なつかしの
2 ほんのり月が 出た宵は 黄金の波が ゆれる海 ポーと汽笛を 鳴らして お船はどこへ 行くのでしょうか
3 思い出の丘 花の丘 今日ひとり 月の海 じっとながめる 足もとに はのかに匂う 月見草

昭和24年 発表。
月見草も宵待ち草も有りません。
待宵草と大待宵草のことです。

Am or C+ # Cm 6/8 66 宵待ち草 竹下夢二 1番 西條八十 2番 多 正亮
ミ | ー | ミ | ー | ド | シ | ラ | フ | ミ | ミ | レ | ド | シ | ド | レ | ミ | ー | ー | 0 | ミ | ー | ミ | ー | ミ |
ミ | ー | ミ | ー | ミ | ミ | ド | レ | ミ | ー | ミ | ー | ミ | ド | シ | ラ | フ | ミ | ー | ー | 0 |

1 待てど暮らせど 来ぬ人を 宵待草の やるせなさ 今宵は月も 出ぬそうな
2 暮れて河原に 星ひとつ 宵待草の 花の露 更けては風も 鳴くそうな

最初は花が散るとしたが宵待草の花は、萎むだけで散らないと指摘され変更した。
昭和13年 2番作詞。
映画化に当たり、歌が短か過ぎるとして、2番が作られた。

鳥の歌

C [F] 2/4 ウグイス 林柳波 井上武士
ド ドレミソソ | ミミレドレ - | ミ ミレドドラド | レレミミレ - | ド レ ミラソ | ミ レレド - |
1 梅の小枝で うぐいすは 春が来たよと うたいます ホーホーホケキョ ホーホケキョ
2 雪のお山を きのう出て 里へ来たよと うたいます ホーホーホケキョ ホーホケキョ

C [F] 2/4 72 赤い鳥小鳥 北原白秋 成田為三
ド ドドド ド | レ ミ レ 0 | ソ ミ ソ ミ | レ ド レ 0 | ラ ララド ド | レ ミ ド 0 |
1 赤い鳥小鳥 なぜなぜ赤い 赤い実を食べた 2 白い 3 青い
大正7年 作詞。
大正9年 作曲。

C [F] 2/4 116 静かな湖畔 山北多喜彦 スイス民謡
ドドドレ | ミミミミ | レドレミ | ドソ | ミミミ | ソソソ | ファソ | ミ - | ソミー | ソミー | ソミソミ | ソミー |
1 静かな湖畔の 森の陰から もう起きちゃいかかと かつこうがが鳴く カッコウ カッコウ カッコウ カッコウ カッコウ
2 夜も更けたよ おしゃべり止めて もう寝ちゃいかかと ふくろう鳴く ホッポー ホッポー ホッポー ホッポー ホッポー

C [F] 4/4 132 ひばり 日本伝統曲
ミレミレミレド | ミソソミドレミ | ドミミレドソ | ドシドレミミレ | ミ ラ ソ - | レ ファ ミ - | ラ ソ ミ - | レ ミ ド - |
1 ぴいぴいぴいと さえずるひばり さえずりながら どこまで上がる 高い高い 雲の上か 声は聞こえて 見えないひばり
2 ぴいぴいぴいと さえずるひばり さえずり止んで どこらへ落ちた 青い青い 表の中か 姿隠れて 見えないひばり

C [G] 4/4 80 七つの子 72/100選 野口雨情 本居長世
ミ レドレ - | ミドラドソ 0 | ラソミソラ ド | レ - - 0 | ミ - ファソ ミ | ソ ラソミ ド | レレミドラ ソ | ド - - 0 |
レ -レレ 0 | レ -レレ ミ | ファ ミ レ レ | レ ミ ラ 0 | ソ -ソソ 0 | ド -ドド レ | ミ ファ ラ ド | レ - - 0 |
ミ レドレ - | ミドラドソ 0 | ラソミソラ ド | レ - - 0 | ミ - ファソ ミ | ソ ラソミ ド | レ ミドラ ソ | ド - - 0 |
からす なぜ啼くの カラスは山に かわいい 七つの子があるからよ
可愛い可愛いと からすは啼くの 可愛い可愛いと 啼くんだよ
山の 古巣へ 行ってみてごらん 丸い 目をした いい子だよ
大正10年 発表。
7羽は有り得ない。
7歳は子供ではない。 } 何が7つ?

G [C] 4/4 108 とんび 葛原しげる 梁田貞
ド -レミソラソ | ド - ラ - | ソ -ミラソミド | レ - - 0 | ド -レミソラソ | ド - ラ - | ソ -ミラソレミ | ド - - 0 |
ド -ソソ - | ラ -ミミ - | ド -ソソ - | ラ -ミミ - | ド -レミソラソ | ド - - 0 | ド -ラソミレミ | ド - - 0 |
1 飛べ飛べとんび 空高く 啼け啼けとんび 青空に ピンヨロー ピンヨロー ピンヨロー ピンヨロー 楽しげに 輪をかいて
2 飛ぶ飛ぶとんび 空高く 啼く啼くとんび 青空に ピンヨロー ピンヨロー ピンヨロー ピンヨロー 楽しげに 輪をかいて
大正7年 発表。

Am or G [Am] 2/4 からすの赤ちゃん 海沼実 海沼実
ララララララシ | ララララララミ - | ラ -シラ ララ | ミ ラララミ - | ラ ララシ ラシ | ド -ミド ミ | ファ ラララ ミミ | ラ シラ シ |
ラ -ラミ -ド | ミ ラミラ - |
1 からすの赤ちゃん なぜなくの こけこっこの おばさんに 赤いお帽子 欲しいよ 赤いおくつも 欲しいよと かあかあ なくのね
2 めえめえやぎさん なぜなくの おさとの かあさんに おねむに なったよ あまいおっぱい ちょうだいねと めえめえ なくのね
3 まいごの鳩さん なぜなくの みみずく おじさんに 夜道はこわいよ ほおずきちょうちん かしとくれと ほろほろ なくのね

大正7年 児童文芸雑誌「赤い鳥」が刊行され、子供向けの歌も多数発表された。
歌を忘れたカナリヤは〜と歌う「カナリヤ」が最初の曲となる。

昭和16年作。
音羽ゆりかご会を創設。
最後の童謡作曲家。

動物の歌

Am or G [Am] 4/4 96 お山の細道 葛原しげる 小松耕輔
ラ -ラシ ラ | シ -ドミ ド | ミ -ミファ ラ | ミ - - 0 | ファ -ララ ファ | ミ ファミド ラ | シ -シド ミ | シ - - 0 |
シ -ドシ ラ | ミ -ドミ ファ | ミ -ミラ ラ | シ - - 0 | ミ -ラミ ファ | ラ -ラミ ド | ミ -ミド シ | ラ - - 0 |
1 お山のお山の 細道は だれだれ通る だれ通る きつねの親子の 通る道 月夜にためぎの 通る道
2 お山のお山の 細道は だれだれ通る だれ通る 山きじ子きじの 通る道 月夜のうさぎの 通る道
小松耕輔は 東由利町出身。
明治17年生まれ。

Am or G [Am] 2/4 72 うさぎ 文部省唱歌 文部省唱歌
ファ - ファ ラ | シ ラ シ 0 | ファ ファ ファ ラ | シ ラ シ 0 | ラ シ ド ド | シ ラララ ミ | ラファミー | ファミレー | ミー - 0 |
うさぎうさぎ なにみてはねる 十五夜お月さん 見てはねる
明治25年 小学唱歌2 に掲載。元は、わらべうた。
十五夜=仲秋の名月=芋名月。 十三夜=豆名月=栗名月。 旧暦の毎月十五日夜=満月。
箱弁当を持って、友達の家遊びに行ったものでした。

G [C] 4/4 森の小ヤギ 藤原秀夫 本居長世
ソ | ミ - 0ソ | ミ - - 0 | 0ミソド シシラ | 0ミソラ ソソミ | 0レミファソラソ | ミミレド レミレ | 0ミソドシシララ | 0ミソラ ソソミ |
0レミファソラソ | ミド ミレドレ | - - - 0 |
1 めえめえ 森のこやぎ 森のこやぎ 2 めえめえ 森のこやぎ 森のこやぎ
こやぎ走れば 小石にあたる こやぎ走れば 株こにあたる
あたりやあんよが ああ痛い あたりやあんまが ああ痛い
そこでこやぎは めえと鳴く そこでこやぎは めえと鳴く
藪にあたれば 腹こがちくり
とっこあたれば 頸こが折れる
折れりゃこやぎは めえと鳴く
童謡には、怖い話が結構ある。とくに、外国曲に多い。これは、子供の躰に厳しいからと言われている。ヨーロッパは戦争が多かったので、甘やかしては国が減んだ。
朽木

G [C] 4/4 子犬のマーチ 久野静夫 外国曲
ミ ド ミ ド | ミ ソ ソ - | ファ レ レ - | ミ ド ド - | ミ ド ミ ド | ミ ソ ソ - | ファ レ レ レ | ド ミ ド 0 |
ファ ラ ソ ミ | ファ レ レ レ | ド ミ ソ - | ファ ラ ソ ミ | ファ レ レ レ | ド ミ ド 0 |
1 よちよち子犬 ククククン ククククン 2 よちよち子犬 ククククン ククククン
ペロペロぼくを なめては ククククン なかよくさんぼ じゃれては ククククン
かわいいな コロコロ ころんで かわいいな コロコロ ころんで
かわいいな ククククククン なくよ かわいいな ククククククン なくよ

G [C] 2/4 112 こぎつね 勝承夫 ドイツ民謡
ドレミファ ソ ソ | ララドラ ソ - | ララドラ ソ - | ソラララ ファミミミ | ミレミレ ドミソ | ソラララ ファミミミ | ミレレミ ド - |
1 こぎつねコンコン 山の中 山の中 2 こぎつねコンコン 冬の山 冬の山 3 こぎつねコンコン 穴の中 穴の中
草の実つぶして お化粧したり 枯葉の着物じゃ めうにもめえず 大きなしっぽは じゃまにはなるし
もみじのかんざし つげのくし きれいなもようの 花も無し 小首をか上げて 考える
ドイツ語の歌詞は、猟師がガチョウを盗んだ狐を鉄砲で脅している、チョット怖い話。

G [C] 4/4 120 おうま 16/100選 林柳波 松島つね
ミソソソ ラソソソ | ラドドレ ドラソ0 | ドドラソ ララソミ | ソ ミミ ソ ミミ | レ レ ド 0 |
1 お馬の親子は なかよしよし いつでもいっしょに ぼっくりぼっくり歩く
2 お馬のかあさん やさしいかあさん 子馬を見ながら ぼっくりぼっくり歩く
昭和16年 発表。
軍馬に対する関心を持たせるためにつくられた。林も松下も同意できず、やさしい曲にした。その時、2人とも教科書編集委員であった。

C [F] 2/4 62 金魚のひるね 鹿島鳴秋 弘田龍太郎
ド - ドレ | ミ ミレ ミ | ソ ラソミ ド | ミ ミレ - | ミ ミミレ | ド ドラ ラ | ソ ソドレ | ミ レミド - |
1 赤いべべ着た かわいい金魚 おめめをさませば ごちそうするぞ
2 赤い金魚は あぶくをひとつ 昼寝うとうと 夢からさめた
大正8年 発表。

子守唄

C [F] 2/4 116 ゆりかごの唄 98/100選 北原白秋 草川信
ソ ラソミ ド | レ -ミレ 0 | ラ ドラソ ド | ミ ソミレ 0 | ミ -ミミ レミ | ソ -ソラ ソ | ミ -ソミ レ | ド - - 0
1 ゆりかごの歌を 2 ゆりかごの上に 3 ゆりかごのつなを 4 ゆりかごの夢に 大正10年 発表。
かなりやが歌うよ びわの実がゆれるよ 木ねずみがゆするよ 黄色の月がかかるよ 木ねずみ=リス
ねんねこねんねこ ねんねこねんねこ ねんねこねんねこ ねんねこねんねこ
ねんねこよ ねんねこよ ねんねこよ ねんねこよ

C [F] 4/4 竹田の子守唄 大阪民謡
ソ ラドレ レミ | レ - ド ラ0 | ララドレミ ミレ | レ - - 0 | ソ ラドレ レソ | ミ - レ ド0 | ラ ラドド ドラ | ラ - - 0
1 守りもいやがる 盆から先いや 雪もちらつくし 子も泣くし 京都市の、被差別部落に伝わる民謡。
2 盆がきたとて なにうれしかる かたびらはなし 帯はなし 「橋の無い川」が舞台化された時に使用され、
3 この子よう泣く 守りをばいじる 守りもいちにち やせるやら フォーク歌手たちに広まった。
4 はよもいきたや この在所越えて むこうに見えるは 親のうち 子守唄では無く守り子唄です。

Am or C [Em] 2/4 63 中国地方の子守唄 日本古謡 山田耕柝
ミ ミミ7ラ ララ | ミ - 7ア - | 077ラ ラ ミ | - 77ミド -ド | ミ - - - | 077ドドミ -ミ | 7ア -ラミ | ドド | シド - ミ |
ラ -ラシ - | ド ララシ - | ド ララシ - |
1 ねんねこしゃっしやり ませ 2 ねんねこしゃっしやり ませ 3 宮へ参った時 岡山県井原市高屋町発祥の民謡。
寝た子の かわいさ 今日 二十五日さ なんと 言うて 拝むさ 昭和13年 編曲。
起きて泣く子の ねんころろ あすはこの子の ねんころろ 一生この子の ねんころろ
つらにくさ 宮参り まめなよに
ねんころろん ねんころろん ねんころろん ねんころろん

Am or C [Am] 4/4 島原の子守唄 宮崎一章 宮崎一章
0 ラ シ ド | ミ 77ミド ミ | 0 77ミラ ラシ | ラ 77ミド ミ | ミ ミ77ミ | ドシ | ラ シドシ - |
ミミミミミミミド | ミミミドミ - | ミミミミラララシ | ドドドシラ - |
1 おどみや島原の おどみや島原の 梨の木育ちよ 何の梨やら 何の梨やら 色気なしばよ しょうかいな
はよ寝ろ泣かんで オロロンバイ 鬼(おん)の池ん 久助どんの 連れんこらるばい 2~5番省略

Am or C [Em] 3/4 66 五木の子守唄 音丸 唄 古関裕而 採譜
ミ ラ シ | ド ミミラ | - - シ | ド ミミミ | - - ド | ミ 7ア ミ | - 0 ド |
ミ 7ア ラ | - 7ア - | ミ - ドシ | ラシラ - | ド シ ラ | - 7ア ミ | ラ - - | - - 0 |
1 おどま盆ぎり盆ぎり 盆から先きやおらんと 盆が早よ来りや 早よ戻る 熊本県五木村に伝わる守り子唄
おどま勸進勸進 あん人たちがよか衆 よか衆よか帯 よか着物 おどま=私
おどまがうっ死んだちゆうて 誰が泣いてくりゆか 裏の松山蟬が鳴く 勸進=(ここでは)乞食
よか衆=三十三人衆と呼ばれた地主衆

Am or C [Dm] 4/4 江戸子守唄 15/100選 日本古謡 日本古謡
7ア - 7ア ミ | 077ラ 7ア ミ | 0ドミ77ラ 77ラ | ミ - - 0 | 0ララ シ ラシ | 0ドミ 7ア ミ | 0ラシ ド シラ | シ - - 0 |
7ア - 7ア ミ | 077ラ 7ア ミ | 0ドミ77ラ 77ラ | ミ - - 0 | 0ララ シ ラシ | 0ドミ 7ア ミ | 0ラシ ド シ | ラ - - 0 |
1 ねんねんころりよ おころりよ 2 ぼうやのお守りは どこへ行った 3 里のみやげに 何もろた 11代将軍家斉のころから
ぼうやはよい子だ ねんねしな あのやまこえて 里へ行った でんでん太鼓に 笙の笛 記録が残っている。

G [C] 3/4 ブラームスの子守唄 堀内敬三 ブラームス
ミミ | ソ -ミミ | ソ - ミソ | ド シ -ラ | ラ ソ レミ | 7ア レ レミ | 7ア 0 77ラ | シラ ソ シ | ド 0 ドド |
ド - ラ77 | ソ - ミド | 7ア ソ ラ | ミ - ドド | ド - ラ77 | ソ - ミド | 777777ミ レ | ド - 0 |
1 眠れよ吾子(あこ) 汝(な)をめぐりて うるわしの 花咲けば 眠れ今は いとやすく あした窓に 訪(と)いくるまで
2 眠れよ吾子(あこ) 汝(な)が夢路を あまつ使い 護もりたれば 眠れ今は いと楽しく 夢の園に 微笑みつづ

母と子の歌

C [F] 2/4 60 肩たたき 27/100選 西條八十 中山晋平
ド ソ ドミレド | レレミソ -0 | ラ ソ ラ ソ | ミ レ ド -0 | ド ソ ドレミレ | ドレミレソ -0 | ラ ソ ド ソ | ミ レ ド -0 |
ミ ソ ミミレド | レレミ ソ -0 | ラ ソ ド ソ | ミ レ ド -0 | レ レ ドレミレ | レレミ ソ -0 | ラ ソ ラ ソ | ミ レ ド -0 |
ド ソ ドレミミ | ソミレドレ -0 | ラ ソ ド ソ | ミ レ ド -0 |
母さんお肩を 母さん白髪が お縁側には 真っ赤なけしが 母さんそんなに 共通 タントントン
たたきましよう ありますね 日がいっぱい 笑ってる いいきもち タントントン 大正12年 発表。

C [F] 2/4 60 しゃぼん玉 49/100選 野口雨情 中山晋平
ソドドレミソソ0 | ラ77ドラソソ0 | ミミレドレソソ0 | ララソドミレド0 | ソドドレミソソ0 | ラ77ドラソソ0 | ミミレドレソソ0 | ララソドミレド0 |
ド-ドドドドラソ0 | ドドレミソミレド0 |
1 シャボン玉飛んだ 屋根まで飛んだ 2 シャボ玉消えた 飛ばずに消えた 大正11年作詞 大正12年作曲。
屋根まで飛んで こわれて消えた 生まれてすぐに こわれて消えた 雨情は、長女「みどり」を生まれて8日で亡くす。
風風吹くな シャボン玉飛ばそ 風風吹くな シャボン玉飛ばそ 讚美歌「主われを愛す」はそっくり。

C [G] 4/4 86 かあさんの歌 25/100選 窪田聡 窪田聡
ミ レドレ ミレ | ド シドラ ララ | 7ア -ミレドレ | ミ - - ララ | ド-ドドシラ ララ | ミ-ミミレド ララ | ラ -ソ7ア ソ7ア | ミ - - 7777 |
ミ ドドレ7777 | ミレドシラ ミミ | ド シラミレドシ | ラ - - 0 |
1 かあさんが 夜なべをして 2 かあさんが 麻糸つむぐ 3 かあさんの あかぎれ痛い 昭和31年、
手袋 あんてくれた 一日 つむぐ 生みそを すりこむ 20才の時の作。
木枯らし吹いちゃ 冷たかろうて おとうは土間で わら打ち仕事 根雪もとけりや もうすぐ春だで ペギー葉山の歌で
せつせと 編んだだよ お前も がんばれよ 畑が 待ってるよ より広まった。
ふるさとの 便りはとどく ふるさとの冬は さみしい 小川のせせらぎが 聞こえる
いろりの においがした せめてラジオ 聞かせたい なつかしさが しみとおる

C [F] 3/4 138 メダカの兄妹 荒木とよひさ 三木たかし
ソソド レ | ミレドドソ | ラ -ドドレ | ド 0 0 | ソソド レ | ミ レ ド | レレレ ミ | レ 0 0 |
ソソド レ | ミ レ ド | 7777ソ | ラ 0 0 | ソソソ ソ | 7ア ミ レ | ソソラ シ | ド - 0 |
0 0 ソ | ミ 0 ソ | ミ 0 ソ | 7ア - レ | レ 0 7ア | レ 0 7ア | レ 0 ラ | ソ - ミ |
ミ 0 ソ | ミ ド ソソ | ミ ド - | 7ア 7ア ソ | ラ - 0 | ソソソ ソ | ソ ラ シ | ド 0 ミ | ド 0 0 |
1 すずめの兄妹が電線で 2 子猫の兄妹が陽だまりで 3 めだかの兄妹が 川の中
大きくなったらなんになる 大きくなったらなんになる 大きくなったらなんになる 昭和57年発表。
大きくなったらタカになる 大きくなったらトラになる 大きくなったらコイになる 欽どこの挿入歌。
大きくなったらペンギンに 大きくなったらライオンに 大きくなったらクジラに 三人娘「わらべ」歌。
チュンチュン ~ ニャンニャン ~ スイスイ ~
だけど大きくなっても だけど大きくなっても だけど大きくなっても
すずめはすずめ チュンチュン ニャンコはニャンコ ニャンニャン めだかはめだか スイスイ

Am or C [Dm] 4/4 120 通りゃんせ 63/100選 わらべうた
ミ - ミ レ | ミ ミレシ - | 7ア 7777ラ 7777 | 777777レミ - | 7ア 7ア -7777 | 777777レミ 0 | ド -ドミ | ドシ | ドシララシ - |
ドド | ドミミドシ | ドシララシ - | 777777777777 | 777777レミ - | ドドドドドミドシ | ドシララシ 0 | 0ミミミミミミレ | ミミミレララシ |
0ラシドレミ7777 | 7ア ラ シラ77 | ミ ミレミ - |
通りゃんせ通りゃんせ ここはどこの細道じゃ 天神様の細道じゃ ちっと通してくださいんせ 御用の無い者通しやせぬ
この子の七つのお祝いに お札を納めに参ります 意気はよいよい帰りはこわい 怖いながらも 通りゃんせ 通りゃんせ

G [C] 童神(わらびがみ) 古謝美佐子 佐原一哉
ド ドレミ ソ | ラ ラドソ 0 | ラ ラドソ ミ | レミレドレ 0 | ド ドレミ ソ | ラ ラドソ 0 | ラ ドドソ ミ | レミレドド 0 |
ミミソラ ミ 0 | ミミソ ミ 0 | ミミソラミミミ | レミレドレ 0 | ド ドシ ソ | ラ ミ ソ ミソ | 0レミレ レミ | -レミレドソ 0 |
ド ドシ ソ | ラ ミ ソ ミ | 0レレミレミソラ | ド - - 0 |
昭和52年作。 夏川りみ も歌う。

友達の歌

Am or C [Dm] 2/4 104 仲よし小道 三苦やすし 河村光陽

1 仲よし小道はどこ道 2 仲よし小道はうれしいな 3 仲よし小道の小川には 4 仲よし小道の日暮れには

昭和14年作。

Am or C [Dm] 2/4 108 あの子はたあれ 細川雄太郎 海沼実

1 あの子は誰 誰でしょね 2 あの子は誰 誰でしょね 3 あの子は誰 誰でしょね 4 あの子は誰 誰でしょね

昭和14年作。

G [C] 2/4 102 赤い帽子白い帽子 竹内俊子 河村光陽

1 赤い帽子白い帽子仲よしさん 2 赤い帽子白い帽子仲よしさん 3 赤い帽子白い帽子仲よしさん 4 赤い帽子白い帽子仲よしさん

G [C] 4/4 112 靴が鳴る 34/100選 清水かつら 弘田龍太郎

1 お手々つないで 野道を行けば 2 花をつんでは おつむにさせば

大正8年作。

C [F] 2/4 112 たこの歌 文部省唱歌 文部省唱歌

1 たこたこあがれ 風よくうけて 2 絵だこに字だこ どちらも負けず 3 あれあれさがる 引け引け糸を

C [D] 4/4 村祭り 91/100選 文部省唱歌 南能衛

1 村の鎮守の神様の 今日のはめでたいお祭り日 2 今年も豊年満作で 村は総出の大祭 3 治まる御代に神様の めぐみたたえる村祭り

C [F] 2/4 あんたがたどこさ わらべ歌 わらべ歌

あんたがたどこさ 肥後さ 肥後どこさ 熊本さ 熊本どこさ 船場さ 船場山には狸がおってさ

舞台は肥後ですが江戸の歌です おっかぶせ?

歌声喫茶の歌

Am or C+#[Am] 4/4 黒い瞳の 矢沢保 ロシア民謡

1 黒い瞳の若者が 2 もろ手をさしのべ若者を 3 愛のささやきを告げながら 4 緑の牧場で踊ろうよ 5 私の秘め事父さまに

Am+ C or C+#[DNm] [DNm#] 3/4 小さいぐみの木 ウクライナ民謡

1 なぜか揺れる細きグミよ かしらうなだれ思いこめて 2 広き川の岸をへだて 高き榿の木ひとり立てり 3 グミの想い檜に伝えん わが身ふるわせ語るときに

Am+ C or C [DNm] 2/4 川岸のベンチで シャーモフ モクロウソフ

1 灯またたき月は水にゆれ 川岸で語る若者と乙女 2 若者のひとみ明るく輝き 乙女の黒髪そよ風にゆれる 3 真夏の夜空にきらめく星影 若き日の幸を静かにささやく

213曲集から少し変更しています

C [F] 2/4 かわいいあの子 高木義夫 イド'ネア民謡

1 可愛いあの子は誰の者 3回 2 可愛いあの子の片えくぼ 3 可愛いあの子は誰の者 3回

213曲集から少し訂正しています

C [F] 4/4 イムジン河 朴世永 高宗漢

1 イムジン河水清く とうとうと流る 2 北の大地から 南の空へ 3 イムジン河空遠く 虹よかかってくれ

元は、北朝鮮の楽曲であり、朝鮮学校の学生が歌っていた。昭和43年、13万枚のプレスが終わった後、北朝鮮 韓国 双方からのクレームにより、発売中止され、フォークルセダーズの幻の第2弾シングルとなった。

C [G] 4/4 草原情歌 青山梓 王洛賓

1 はるか離れた そのまたむこう 2 明るい笑顔 お日さまのよう 3 お金も宝も なんにもいらぬ

新疆ウイグル自治区カザフ族の民謡として、歌いつがれてきたもの。昭和13年、採譜編曲、中国語の歌詞を付けた。元歌は、半音が多用されていて、同じ曲とは思えないほど違うように感ずる。

C **A** 4/4 明日があるさ 青島幸男 中村八大

ソ ミ ミレレドシ レドドラソ 0ソ ミ ミレレドラ ソレレミレ 0ソ ミ ミレレド0ド 77 ミミレ0レ ミ レドシソシレ ド ー 0ソ

1 いつもの駅でいつも逢う 2 濡れてるあの子コウモリへ 3 今日こそはと待ち受けて 4 思い切ってダイヤルを
セーラー服のお下げ髪 さそってあげよと待っている うしろ姿をつけて行く ふるえる指で回したよ
もう来る頃もう来る頃 声かけよう声かけよう あの角まであの角まで ベルが鳴るよベルが鳴るよ
今日も待ちぼうけ だまってみてる僕 今日はまだヤメタ 出るまで待てぬ僕

5 初めて行った喫茶店 6 明日があるさ明日がある 昭和38年 シングル発売。
たった一言好きですと 若い僕には夢がある 80万枚のヒット。
ここまで出てここまで出て いつかきつといつかきつと
とうとう言えぬ僕 わかってくれるだろ

G **C** 4/4 ここに幸あり 高橋掬太郎 飯田三郎

ド レミ ド シ ソラ ー 0ソソミレ ドレ ミ ー ー ー ソ ソミレ ド ドドラ ー 0ドソミレ レ ド ー ー ー

1 嵐も吹けば 雨も降る 2 誰にも言えぬ 爪のあと 3 いのちの限り 呼びかける 昭和28年。
女の道よ なぜ険し 心に受けた 恋の鳥 こだまのはてに 待つは誰 同名映画の主題歌。
君をたよりに 私は生きる ないのがれて さまよい行けば 君に寄り添い 明るく仰ぐ
ここに幸あり 青い空 夜のちまたの 風哀し ここに幸あり 白い雲

G **C** 6/8 144 ゴンドラの歌 吉井勇 中山晋平

ドドドレミ ソミドソ ー ソラソミレドソ ミ ー ー ー 0 ドドドレミ ソミドソ ー ドレラソレミ ド ー ー ー 0

1 いのち短し 恋せよ乙女 2 いのち短し 恋せよ乙女 3 いのち短し 恋せよ乙女 4 いのち短し 恋せよ乙女
あかき唇 あせぬ間に いざ手をとりにて かの舟に 波にただよう 舟のよに 黒髪の色 あせぬ間に
熱き血潮の 冷えぬ間に いざ燃ゆる頬を 君が頬に 君が柔わ手を 我が肩に 心のほのお 消えぬ間に
明日の月日は ないものを ここには誰も 来ぬものを ここには人目も 無いものを 今日ふたたび 来ぬものを

G **D** 3/4 88 芭蕉布 吉川安一 普久原恒勇

ソ ソ ソ ソ ー ソラ ソ ー ソラ ミ ー ー ド ー ドレ ミ ー ミラ レ ー ー ー ー ー ー ー

1 海の青さに 空の青 2 首里の古城の 石だたみ 3 今は昔の 首里天 加那志 唐ラウーつむぎ はたを織り
南の風に 緑葉の 昔を偲ぶ かたほとり 浅地紺地の 我した島 沖繩 浅地紺地=藍染の濃さの程度
芭蕉は情に 手を招く 実れる芭蕉 熟れていた 上納さげた 芭蕉布
常夏の国 我した島 沖繩 緑葉の下 我した島 沖繩

C **E** 4/4 130 しあわせのうた 榊原郁恵 木下龍太郎 高井達雄

ミ ミ ミ ーラ ミミドドラ ー 0ラ ドラ シ ー ー 0 ミ ミ ミ ーラ ミミレシ ー 0レドレ ミ ー ー 0

1 東に住む人はしあわせ 2 北に住む人はしあわせ 3 南に住む人はしあわせ 4 西に住む人はしあわせ 5 生きてることはしあわせ
生まれたばかりの太陽を 春を迎えるよろこびを いつでも花の首飾り いつも終わりに太陽を 悲しいこともあるけれど
一番先に見つけることが 誰より強く感じる事が 愛する人に捧げることが 明日の空へ見送ることが 未来をいつも夢見ることが
できるから できるから できるから できるから できるから

昭和59年 NHKみんなの歌で発表。
テレビでは5番は歌っていない。

C **F** 6/8 100 琵琶湖就航の歌 小口太郎 吉田千秋

ソ ドドドシラ ミミミミ ソミミレド レ ー ー 0ソ ドドドシラ ミミミミ ソーラド ド ー ー ー 0

1 われは湖の子 さすらいの 2 松は緑に 砂白き 3 波の間に間に 漂えば 4 瑠璃の花園 珊瑚の宮 5番6番省略。
旅にしあれば しみじみと 雄松が里の 乙女子は 赤い泊り火 懐かしみ 古い伝えの 竹生島
昇る狭霧や さざなみの 赤い椿の 森陰に 行方定めぬ 波枕 仏の御手に 抱かれて
志賀の都よ いざさらば はかない恋に 泣くとかや 今日は今津か長浜か 眠れ乙女子 やすらげく

C+# **F** **F#** 6/8 40 浜辺の歌 78/100選 林古溪 成田為三

ソ ソドレミレド レラドシラ ソドミレド レ ー ー 0ソ ソドレミレド レラドシラ ソミソレ ド ー ー 0ソ

1 あした浜辺を さまよえば 2 ゆうべ浜辺を もとおれば 3 はやちたちまち 波を吹き 大正5年作。
昔のことぞ 忍ばるる 昔の人ぞ 忍ばるる 赤裳のすそぞ めれもせじ わが町岩城では、
風の音よ 雲のさまよ 寄する波よ 返す波よ やみし我は すでにいえて 今野旅館に泊まり
寄せる波も 貝の色も 月の色も 星のかげも 浜辺の真砂 まなごいまは 道川海岸を散策し
東京音楽学校の校友会誌に発表された時、 3番の歌詞の前半と、4番の歌詞の後半を合わせたものを、3番にされてしまった。 曲の構想を練った
ということになっています。

C+# **F** **F#** 4/4 新妻に捧げる歌 中村メイコ 神津善行

ソソ ラソ ドレ ミ レド ー ラ シドラ トラ ソ ー ー 0ミ ソ ラソ ドレ ミ レド ー レラシ ドレ ド ー 0 0ミ

1 幸せを求めて ふたりの心は 2 幸せを夢見て ふたりの心は 昭和39年作。
寄り添い 結び合う 愛の灯 手を取り 触合つて 愛のゆりかご 作詞作曲の二人は夫婦。
悲しみを慰め 喜びを分かち合い 悲しみはひそやかに 喜びはおおらかに
ふたりで歌う 愛の歌 ふたりで歌う 愛の歌
ララララー ララララー

C **G** 4/4 108 四季の歌 47/100選 荒木とよひさ 荒木とよひさ

ミ ミレド ドシ ラ ラ ラ ー 77 ミミレドレラ ミ ー ー 0 77 ミミレ レラ ミミドラ ラ シ ミレドシ ラ ー ー 0

1 春を愛する人は心清き人 夏を愛する人は心強き人 秋を愛する人は心深き人 冬を愛する人は心広き人 5 昭和39年作。
すみれの花のような 岩をくたく波のような 愛を語るハイネのような 根雪をとかず大地のような 春夏秋冬愛して僕らは生きている
ぼくの友だち ぼくの父親 ぼくの恋人 ぼくの母親 明日の世界へ

原詩では逆らしい。

C **G** 3/4 80 故郷 高野辰之 岡野貞一

ドドド レミレ ミミラ ソ ー 0ラ ソラ ミ ーラミ レレシ ド ー 0

1 兎追いし彼の山 小鮎釣りし彼の川 2 如何にいます父母 つつが無しや友がき 3 志を果たして いつの日にか帰らん
夢は今も巡りて 忘れ難きふるさと 雨に風に付けても 想い出づる故郷 山は青き故郷 水は清き故郷

C **G** 4/4 幸せなら手をたたこう 45/100選 木村利人 スペイン伝統曲

ソソ | ドドドドドシ | レ ー 0ソソ | レレレレレドレ | ミ ー 0ソソ | ミミミミミレミ | 7777ミレドシ | レ レドシソラシ | ド ー 0

1 幸せなら手をたたこう 2 幸せなら足ならそう 6 幸せなら指ならそう 10 幸せならとびあがろう
幸せなら手をたたこう 3 幸せなら肩たたこう 7 幸せなら泣きましよう 11 幸せなら相づち打とう
幸せなら態度でしめそうよ 4 幸せならほっぺたたこう 8 幸せなら笑いましよう 昭和39年作。
ほらみんなで手をたたこう 5 幸せならウインクしよう 9 幸せなら手をつなごう いくらでも作詞できそう。

C+ # G G# 4/4 144 上を向いて歩こう 12/100選 永六輔 中村八大

① ② ④ ⑤ ⑦

上を向いて歩こう 上を向いて歩こう 上を向いて歩こう 口笛 上を向いて歩こう
 涙がこぼれないように にじんだ星を数えて 涙がこぼれないように 口笛 涙がこぼれないように
 思い出す春の日 思い出す夏の日 泣きながら歩く 思い出す秋の日 泣きながら歩く
 ひとりぼっちの夜 ひとりぼっちの夜 ひとりぼっちのよる ひとりぼっちの夜 ひとりぼっちのよる

③ ⑥

幸せは雲の上に 悲しみは星のかけに 昭和38年作。
 幸せは空の下に 悲しみは月のかけに Sukiyaki名で、全世界でヒット。

Am or C Am 4/4 月の沙漠 60/100選 加藤まさお ささきすぐる

① 月の沙漠を はるばると 2 金のくらには 銀のかめ 3 先のくらには 王子さま 4 ひろい沙漠を ひとすじに
 旅のらくだが 行きました 銀のくらには 金のかめ 後のくらには お姫さま 二人はどこへ 行くのでしょうか
 禁と銀との くら置いて 二つのかめは それぞれに 乗った二人は おそろいの おぼろにけふる 月の夜を
 二つならんで 行きました ひもで結んで ありました 白い上着を 着てました 対のらくだで とぼとぼと
 砂丘を超えて 行きました
 だまって越えて ゆきました

大正12年作詞作曲。童謡として作られた。 砂漠では無く沙漠です。

Am or C Dm 4/4 96 花かけ 大村主計 豊田義一

① 十五夜お月さま ひとりぼち 2 十五夜お月さま 見てたでしょう 3 十五夜お月さま ひとりぼち
 桜吹雪の 花かげに 桜吹雪の 花かげに 桜吹雪の 花かげに 昭和6年発売。
 花嫁姿の おねえさま 花嫁姿の ねえさまと 遠いお里の おねえさま 幼いころの実体験を
 俵にゆられて ゆきました お別れおしんで 泣きました わたしはひとりに になりました 詩にしたもの。

Am+ or C D N m 6/8 惜別の歌 島崎藤村 藤江英輔

① 遠き別れにたえかねて 2 別れといえは昔より 3 君がさやけき目のいろも 4 君の行くべきやまかわは
 この高樓に登るかな この人の世の常なるを 君くれないの唇も 落つる涙に見えわかず 中央大学学生であり
 悲しむなかれ我が友よ 流るる水を眺むれば 君がみどりの黒髪も 袖のしぐれの冬の日に 陸軍造兵廠板橋製造所に
 旅の衣をととのえよ 夢はずかしき涙かな またいつか見んこの別れ 君に贈らん花もがな 戦地に赴く友人のために
 藤村の「若菜集」にある詩「高樓」の、第一・第二・第五・第七節を使用。 作曲したもの。
 第一節の「我が姉」を「我が友」に変更。 原詩は、嫁ぎ行く姉と見送る妹をうたっている。

Am or C # E m 4/4 喜びも悲しみも幾年月 木下忠司 木下忠司

① おいら岬の 灯台守は 妻とふたりで 沖行く船の 無事を祈って 灯をかざす 灯をかざす 昭和32年、同名映画の
 ② 冬が来たぞと 海鳥なけば 北は雪国 吹雪の夜の 沖に霧笛が 呼びかける 呼びかける 主題歌として作成。
 ③ 離れ小島に 南の風が 吹けば春来る 花の香便り 遠い故郷 思い出す 思い出す 映画歌共に、大ヒット。
 ④ 朝にゆうべに 入船出船 妻よがんばれ 涙をぬぐえ もえてきらめく 夏の海 夏の海
 ⑤ 星を数えて 波の音聞いて 共に過ごした 幾歳月の 喜び 悲しみ 目に浮かぶ 目に浮かぶ

Am or C Gm 2/4 58 花嫁人形 落谷虹児 杉山長谷夫

① 金襴緞子の 2 文金島田に 3 あねさんごっこの 4 泣けばかのこの 5 泣くに泣かれぬ 大正13年 発表。
 帯しめながら 髪結いながら 花嫁人形は たもとがきれる 花嫁人形は かのこ=規則正しい
 花嫁御寮は 花嫁御寮は 赤いかのこの 涙でかのこの 赤いかのこの 斑点模様
 なぜ泣くのだろう なぜ泣くのだろう 振袖着てる 赤い紅にじむ 千代紙衣裳

Am+ or C G N m 4/4 リンゴの唄 100/100選 サトウハチロー 万城目正

① 赤いリンゴに 唇寄せて 2 あの娘良い子だ 気立てのよい子 3 朝の挨拶 タベの別れ 4 歌いましょうか リンゴの唄を
 だまって見ている 青い空 リンゴに良く似た 可愛い娘 いとしいリンゴにささやけば ふたりで歌えば なお楽し
 リンゴは何にもいわないけれど どなたがいったか、うれしいうわさ 言葉は出さずに 小首をまげて 皆で歌えば、なおお嬉し
 リンゴの気持ちはよく判る 軽いクシャミも飛んで出る 明日もまたねと 夢見顔 リンゴの気持ちを伝えよか
 リンゴ可愛いや 繰り返し リンゴ可愛いや 繰り返し リンゴ可愛いや 繰り返し リンゴ可愛いや 繰り返し

昭和20年 映画「そよかぜ」の挿入歌として製作。 戦後第1号のヒット曲。

C F 4/4 121 もしも明日が 荒木とよひさ 三木たかし

① もしも明日が晴れならば 愛する人よあの場所で 2 もしも季節が変わったら 愛する人よあの歌を 3 もしも明日が晴れならば
 もしも明日が雨ならば 愛する人よ そばにいて もしも手紙を書いたなら 愛する人よ逢いに来て 愛する人よあの場所で
 今日の日よさようなら 夢で逢いましょう 今日の日を想い出に そつと残しましょう もしも明日が雨ならば
 そして心の窓辺にあかり 灯しましょう そして心の垣根に花を 咲かせましょう 愛する人よそばにいて
 もしも明日が風ならば 愛する人よ 呼びに来て もしも涙がこぼれたら 愛する人よなぐさめて 愛する人よそばにいて
 昭和58年 「飲どこ」で発表。 わらべのかなえとたまえの2人だけで歌唱。 213曲集 冬の歌

C F 4/4 90 お正月 20/100選 東くめ 滝廉太郎

① もういくつ寝ると お正月 お正月には 凧あげて こまを回して 遊びましょう 早く来い来い お正月
 ② もういくつ寝ると お正月 お正月には まりついて 追羽根ついて 遊びましょう 早く来い来い お正月

明治34年作。

G C 4/4 96 一月一日 (いちげつ いちじつ) 千家尊福 上真行

① 年の初めの 例として 終わり無き世の 目度さを 松竹たてて 門ごとに 祝 (いお) う今日こそ 楽しけれ
 ② 初日の光 さしいでて 四方 (よも) に輝く 今日空 君がみかげに 比 (たぐ) えつつ 仰ぎ見るこそ 尊 (とお) とけれ

G C 4/4 69 君が代 古今和歌集 宮内省雅楽課林広守

君が代は 千代に八千代に さざれ石の 巖となりて 苔の 生すまで 明治13年、雅楽の「春越調律旋法」で作られた。
 (我が君は 千代にやちよに さざれ石の 巖となりて 苔の むすまで) 最も古い歌詞の国歌。 Eの音を使っていないので、
 国歌とされているのは、1番だけ。 古今和歌集の和歌 最も古い歌詞の国歌。 八長調とも イ短調とも
 カラヤンが「世界一美しい国歌だ」と言ったとか。 最も平和的な歌詞の国家。 Eの音を使っていないので、
 明治36年 世界国家コンクールで優勝。 カラヤンが「世界一美しい国歌だ」と言ったとか。 最も平和的な歌詞の国家。 Eの音を使っていないので、
 八長調とも イ短調とも 八長調とも イ短調とも 八長調とも イ短調とも 八長調とも イ短調とも 八長調とも イ短調とも

C [B] 6/8 120 燈台守 勝承夫 イギリス民謡 ☆

ソ | ミーミード | レドラソソ | ドードレミ | レー---ソ | ミーミード | レドラソソ | ドードレ | ドー---ド |
 レーレレレ | ミーミミ | 7アミミレド | レー---ソ | ミーミード | レドラソソ | ドードレ | ドー---0 |

1 凍れる月影 空に冴えて 真冬の荒波 寄する小島 2 激しき雨風 北の海に 山成す荒海 猛り狂う
 想えよ灯台 守る人の 尊きやさしき 愛の心 その夜も灯台 守る人の 尊き誠よ 海を照らす

1859年作。
日本で編曲されている。

G [C] 4/4 90 埴生の宿 76/100選 里見義訳 ビショップ

ド | ミー7ア7ア | ソーミソ | 7アミ7ア | レ | ミー0 | ド | ミー7ア7ア | ソーミソ | 7アミ7ア | レ | ドー0 | ソ |
 ド | シラ | ソ | ソーミソ | 7アミ7ア | レ | ミー0 | ソ | ド | シラ | ソ | ソーミソ | 7アミ7ア | レ | ドー0 |
 ソ | ソー | 7ア | レ | ソ | ソー | ソ | ソー | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |

1 埴生の宿も わが宿 玉のよそい うらやまじ 2 ふみ読む窓も わが窓 瑠璃の床も うらやまじ
 のどかなりや 春の空 花はあるじ 鳥は友 きよらなりや 秋の夜半 月はあるじ 虫は友
 おお わが宿よ たのしとも たのもしや おお わが窓よ たのしとも たのもしや

1821年作。
埴=黄赤色粘土

G [C] 3/4 60 森へ行きましょう 東大音感合唱団 ホーランド民謡

ソ | ド | ミー | レ | ド | シ | ド | シ | ラ | ソ | ソ | ミー | 7ア | ソ | ミ | ド | ソ |
 7ア | 7ア | レ | ミ | 7ア | レ | シ | ラ | ソ | ソ | ミー | 7ア | ソ | ミ | レ | ド | シ | ラ |
 ソ | ド | ミー | レ | ド | シ | ド | シ | ラ | ソ | ソ | ミー | 7ア | ソ | ミ | ド | ソ |
 7ア | 7ア | レ | ミ | 7ア | レ | シ | ラ | ソ | ソ | ミー | レ | ド | ソ | 0 | 0 |
 ミ | ミ | レ | ド | ミ | ミ | レ | ド | ミ | 7ア | レ | 0 | ミ | ミ | レ | ド | ミ | レ | ド | 0 |
 ミ | ミ | レ | ド | ミ | ミ | レ | ド | ミ | 7ア | レ | 0 | 7ア | ミ | レ | ド | シ | ラ | ソ | ラ | シ | ド | ド | 0 |

1 森へ行きましょう 娘さん 鳥が鳴く あの森へ 僕らは木を切る 君たちは 草刈の 仕事しに ランラララー
 2 お昼の休みにゃ 娘さん まん丸い 輪を作り 話をしながら おもしろく お弁当 食べましょう ランラララー
 3 仕事が済んだら 娘さん 花の咲く 草原で みんなで手を組み 元気よく 歌いましょう 踊りましょう ランラララー

NHKみんなの歌。
緑色は2ndパート。

C [F] 6/8 62 七里ヶ浜の哀歌 三角錫子 インガルス ☆

ソ | ドー | ドレ | ミ | ソ | ミ | レ | ド | レ | ミ | ソ | ド | ソ | ドー | ドレ | ミ | ソ | ミ | レ | ド | レ | ドー | ソ |
 ラー | ラー | ラー | ラ | ソ | ラ | ド | ソ | ソ | ミ | ミ | レ | ド | ミ | レ | ド | ソ | ドー | ドレ | ミ | ソ | ミ | レ | ド | レ | ドー | 0 |

1 真白き富士の嶺 緑の江の島 仰ぎ見るも 今は涙 帰らぬ十二の 雄々しきみたまに 捧げまつる 胸と心
 2 ポートは沈みぬ 千尋の海原 風も浪も 小さき腕に 力も尽き果て 呼ぶ名は父母 恨みは深し 七里が浜辺
 3 み雪はむせびぬ 風さえ騒ぎて 月も星も影をひそめ みたまよはずこに 迷いておわすか 帰れ早く 母の胸に
 4 みそらに輝く 朝日のみ光 やみにしずむ 親の心 黄金も宝も 何しに集めん 神よ早く 我も召せよ
 5 雲間に昇りし 昨日の月影 今は見えぬ 人の姿 悲しさ余りて 寝られぬ枕に 響く波の 音も高し
 6 帰らぬ浪路に 友よぶ千鳥に 我もこいし 失せし人よ 尽きせぬ恨みに 泣くねは共々 今日あすも かくてとわに

明治43年ポルト転覆。
逗子開成中学校の12人。
同年追悼大会で、発表。

C+# [F] [E] 88 讚美歌いつくしみふかく 星の界 秋に寄せて 星の世界 コンヴァース ☆

ソ | ソ | ラ | ソ | ミ | ド | ド | ソ | ミ | レ | ド | ソ | ソ | ソ | ラ | ソ | ミ | ド | ド | ソ | ミ | レ | ド | ソ |
 レ | ソ | ラ | ソ | ミ | ド | ド | ソ | ミ | レ | ド | ソ | ソ | ソ | ラ | ソ | ミ | ド | ド | ソ | ミ | レ | ド | ソ |

C#ド

杉谷代水 「星の界(よ)」 明治43年。
1 月無きみ空に きらめく光 ああその星影 希望の姿 人智は果てなし 無窮のおちに いざその星影 きわめも行かん
 2 雲無きみ空に 横とう光 ああ洋々たる 銀河の流れ 仰ぎて眺むる 万里のあなた いざ悼させよや 窮理に船に

山崎紀一郎 「秋に寄せて」 昭和35年頃 私はこれを、中学校で習ったような気がします。
 1 澄みゆくみ空に 夕日は落ちて ぐれない燃え立つ 雲間に高く ねぐらを指しゆく 名知らぬ鳥の 鳴きゆく声こそ 秋のおとずれ
 2 冴えゆくみ空に 星はまたたき 山の端近く 月影さして 草の根深く 名知らぬ虫の その音もあわれや 秋のおとずれ

川路柳虹 「星の世界」 昭和45年。
 1 輝く夜空の 星の光よ まばたくあまたの 遠い世界よ ふけゆく秋の夜 すみわたる空 のぞめば不思議な 星の世界よ
 2 きらめく光は 玉か黄金か 宇宙の広さを しみじみ思う やさしい光に まばたく星座 のぞめば不思議な星の世界よ

1868年 讚美歌作曲。

C [G] 3/4 72 アメージンググレイス ジョン・ニュートン 不詳 ☆

ソ | ド | ミ | レ | ド | ソ | ソ | ド | ソ | ド | ミ | レ | ド | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |
 ソ | ソ | ミ | レ | ド | ソ | ソ | ド | ソ | ド | ミ | レ | ド | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |

1 Amazig grace how sweet the sound That saved a wretch like me 1748年 作詞。
 I once was lost but now am found Was blind, but now I see. 3拍子が正しいようです。

213曲集
夏の歌

Am or C+# [Em] 3/4 112 山のロザリア ロシア民謡

ミ | ラ | ソ | ド | ミ | ド | シ | ラ | ソ | ソ | シ | ソ | シ | ソ | レ | ド | シ | ソ | ラ | ソ | ミ | ソ |
 ラ | ラ | シ | ラ | ソ | ミ | レ | ソ | ラ | ソ | ソ | シ | ソ | シ | ソ | レ | ド | シ | ソ | ラ | ソ | ミ | ソ |

1 山の娘ロザリア いつもひとり歌うよ 2 黒い瞳ロザリア 今日ひとり歌うよ 3 ひとり娘ロザリア 山の歌を歌うよ
 青い牧場日暮れて 星の出るころ 風にゆれる花のよう 笛を鳴らして 歌は甘く哀しく 星もまたたく
 帰れ帰れも一度 忘れられぬあの日よ 帰れ帰れも一度 やさしかったあの人 帰れ帰れも一度 命かけたあの夢
 涙ながし別れた 君の姿よ 胸に抱くは形見の 銀のロケット 移り変わる世の中 花も散りゆく

昭和31年 発売。
アレキサンドロフスキー

秋の歌

G [B] [B#] 4/4 秋の夜半 佐々木信綱 ウエーパー

ソ | ソ | ミ | ド | ミ | レ | 7ア | ミ | 0 | ミ | ソ | ド | ミ | ソ | ソ | 7ア | ミ | 0 | ド | ソ | 7ア | ソ | ソ | ミ | ド | ミ | 7ア | 7ア | ミ | 0 |
 ソ | ソ | ミ | ド | ミ | レ | 7ア | ミ | 0 | ミ | ソ | ド | ミ | ソ | ソ | 7ア | ミ | 0 | ド | ソ | 7ア | ソ | ソ | ミ | ド | ミ | 7ア | 7ア | ミ | 0 |

C#レ ラでもおかしくない。 毎時43年 中学唱歌。

1 秋の夜半の み空済みて 月の光 清く白く 雁の群れの 近く来るよ 一つ 二つ 五つ 七つ
 2 家を離れ 国を出でて ひとり遠く 学ぶ我が身 親を思う おもい滋(しげ)し 雁の声に 月の影に

秋の歌

G [D] 4/4 80 旅愁 99/100選 犬童球溪訳 オードウェイ

ソ | ミ | ソ | ド | ソ | ラ | ド | ソ | ソ | ソ | ド | レ | ミ | ソ | ド | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |
 ラ | ド | ソ | ソ | シ | ラ | ソ | ソ | ソ | ラ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |

1 ふけゆく秋の夜 旅の空の わびしき思いに 一人悩む 恋しやふるさと なつかし父母 夢路にたどるは さとの家路
 2 窓打つ嵐に 夢もやぶれ はるけきかなたに 心迷う 恋しやふるさと なつかし父母 思いに浮かぶは 杜のこずえ

明治40年 訳詞。

冬の歌

G [C] 4/4 91 冬の星座 83/100選 堀内敬三訳 ウリアム・ヘイス

ド | レ | ミ | ソ | ラ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |
 ド | シ | レ | ド | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |

1 木枯らしとだえて さゆる空より 地上に降りしく くすしき光よ ものみないこえる しじまの中に きらめき揺れつつ 星座はめぐる
 2 ほのぼの明りて 流るる銀河 オリオン舞い立ち スバルはさざめく 無窮を指さす 北斗の針と きらめき揺れつつ 星座はめぐる

昭和22年 初出。

花の歌

C+# [D] [D#] 3/4 62 庭の千草 里見義 アイランド伝統曲

ド | レ | ミ | ド | ソ | ラ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |
 ド | シ | ラ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |

1 庭の千草も 虫の音も 枯れて淋しく なりにけり ああ白菊 ああ白菊 ひとり遅れて 咲にけり
 2 露にたわむや 菊の花 霜におごるや 菊の花 あああわれ ああ白菊 人の操も かくてこそ

明治17年 小学唱歌三。

C [F] 4/4 80 螢の光 85/100選 稲垣千穎 スコットランド民謡

ソ | ド | ド | ド | ミ | レ | ド | レ | ミ | ド | ド | ソ | ラ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |
 ソ | ソ | ミ | ド | レ | ド | レ | ラ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ | ソ |

1 螢の光 窓の雪 2 止まるも行くも 限りとて 3 筑紫の極み 陸の奥 4 千島の奥も 沖縄も 八州=日本
 書読む月日 重ねつつ 互みに思う 千万の 海山遠く 隔つとも 八州の内の 護りなり 至る=赴任する
 いつしか年も すぎの戸を 心の端を 一言に その真心は 隔て無く 至らん国に 勲しく 勲=元氣
 開けてぞ今朝は 別れ行く 幸くと許り 歌うなり ひとえに尽くせ 国のため 努めよ我が背 恙無く 背=夫 恋人
 恙=病氣

「一つ」と書いてあるものもあります。 明治14年 小学唱歌初編。

2 1 3 曲集とは少し違ってしています。

Am or C 4/4 姉こもさ 角館町の民謡
ラ シ ラシ ド ミ ラ フラ ミ ドシド ミミ ミ - - ド ミ - ラ - シ ドミミ - フラミララ - シ ラシド -
ど オオラ アア バ アアお - ど オオれ - エ イイオ わ か アアい イイ う うち - - - 0 さ
シ ドシラ フラミ フラシミ - ミ ドシラ - シ ドミオ フラ ラ フラミ ドシ ド ミラミ - - - 0 ド

1 姉こもさ さくら花 折りたくば 別れるに 恋しさに この文を 白鳩が 夜あくれば 白岩の 前は川
2 ヤーエー ヤーエー ヤーエー ヤーエー ヤーエー ヤーエー ヤーエー ヤーエー ヤーエー ヤーエー
3 誇らば誇れ 咲いての後に 訊ねてござれ 糸より細く 空飛ぶ鳥に 落としたもな 酒屋の軒に 酒こそ売れ 雲岩寺程の 後は高い
4 若い内 誰れ折ろば 沢雨に 別れます 文をやる 頼みおく 巢をかけて とさえずる 寺も無い 愛宕山

岩手の「気仙坂」を元唄とするたたら踏み唄であったが、二上がりの三味線を付け、お座敷でも唄うようになった。

宮城県「齊太郎節」福島県「原釜大漁節」の元唄でもある。

2 1 3 曲集とは少し違ってしています。

C F 2/4 秋田おばこ
おー ばーアー アーこオ ナーア アーアー ア0なア アアんー ぼーオ オオこイ イ0なア アアアア るーウ ウーウー ウ0こオ
レー ミーラー ソードト ラード ラーソ ミ0ミソ ラトレ ミーラ ソミノミ レ0ミソ ミレドソ ラード ラーソ ミ0ミソ
オオとー とオオオ オーレイ イ0くウ うらー せーエー エーばー ア0とオ オオとー オーなア アアなア つーウ ウーウー ---00
ラトレ ミソミレ ドーレソ ミ0ソレ ミードー ソーラソ ミーレー ミ0ミソ ラドミー レーミソ ミレドソ ラード ラーウー ---00

1 おばこナー 何ほになる 2 十七ナー おばこなど 3 咲けばナー 実もやなる 4 おばこナー 心ろもち
この年暮らせば 十と七つ 何しに花コなど 咲かねどナ 咲かねば日陰コの色紅葉 池の端のハスの葉の たまり水

山形県の「おばこ」が秋田県南部に伝わり、「田沢おばこ」「神代おばこ」「白石おばこ」等、土地ごとのおばこが出来、「仙北おばこ」と総称していた。それを、角館の祭りのため、編曲してできたのが「秋田おばこ」。

2 1 3 曲集とは少し違ってしています。

C C 2/4 生保内節 田沢湖町の民謡
ソ ララ ドー レ ミレ ドーラ ソ ララ ドー - ソ け や おお ぼ ねエ だ - ア シ イ ンア の オオ
ソララ ドー レ ミレ ドーラ ソ ララ ドー - ソ け ぼア た アア か らア か - ア ぜ エエ エ0ノ オ オオ
ラ ソ ラ ドー レ - レ ドレ ラーソ ソ ミ - 0 ド レ ミソ ミ レド レ ミレ ミ - ソ レ ドド ラ0ソ ラ ミレ
い イ ねエ エ み い のオオ る - - ハイ - 秒 ヶ サ - 秒 サ な
ミ ソ ドド ラ ドレ ドトラソ ラ - - 0 ソ ララ ドー レ ミレ ドーラ ソ ララ ドー - ソ

1 吹けや生保内東風 7日も八日も 吹けば宝風ノー 稲実る
2 何ほ隠しても 生保内衆は知れる わらで髪結うてノー 編笠で
3 生保内東風なら 干潟の風よ そよりそよりとノー 湯のかおり
4 わしとお前は 田沢の湯よ 深さ知れないノー 御座の石
5 とろりとろりと 沖行く船は 十七招けばノー 岸による
6 前の田沢湖 鏡において 雪で化粧するノー 駒ヶ岳
7 風の模様で 別れていても 末にまとまるノー 糸柳
8 来たり来ねだり 夏堰の水 いっそ来ねだらノー 来ねといえ
9 上を見てさえ 限りはないと 下を見て咲くノー 藤の花
10 吹けや生保内東風 秋吹くならば 黄金波打つノー 前田んぼ

青森岩手の山背も奥羽山脈を越えれば宝風になります。

2 1 3 曲集とは少し違ってしています。

C G 2/4 おこさ節
ミソソソ ソドドド ラソララ ラ - ミソソソ ソドドド ラソララ ラ -
0 おまえ くる- か -- と -- いっしょ うかっ て -- まったた よ アラ オコサノ サ 0
ソドラ ドレミ ソミレ ミレミ ソラ - ソ ミレド レレレ レソソ ソソソソ ソ 0
0 あまり こ ない の -で コラヤノ ヤ コラ のんで -まっ て -た よ 0 オコサデ オコサデ ホントダ ネ -
ドレレ ミソソ ソミレ ドドラソ ラレド レレミ - レ ドラソ ミ 0 ミソソソ ソドドド ラソララ ラ -

1 お前来るかと 一升買って待ってたよ アラ オコサノサ あまり来ないので コラヤノヤ コラ 飲んで待ってたよ オコサデ オコサデ ホントダネ
2 わしとお前は 火ばしにおとるよ 火ばし夜屋 ふたりづれ
3 風に灯りを 消させておいてネ 忍び込むのが 窓の月ネ
4 恋の古傷 お医者は無しだよ なぜか今夜は また痛むネ
5 啼くな鶏 まだ夜が明けぬヨ 明けりやお寺の 鉦が鳴るネ
6 おこさおこさは どこでもはやるよ ましてこのちょうは こりゃなおはやるよ
7 わしとお前は 羽織の紐だよ 硬く結んで こりゃ胸におくよ
8 お酒飲む人 花ならつぼみよ 今日もさけさけ こりゃ明日もさけよ
9 国のおかたと 知らずにいたがよ 唄で気が付く こりゃおこさ節よ

昭和22年頃の作。作者は不明。おこさの意味も不明。

2 1 3 曲集とは少し違ってしています。

C F 2/4 秋田甚句
ドードー ラララドー レードト ドレー0 ドードー ラドラソ ソーラー ソ0ミミ
んーんー んーんー んーくー うーうー 0 おど オオらア あーばア あー0
ソーラー ソーラー ドーレー ドーラー 0 うー ドーラレ ドーラソ ミー0
さーんー んーじゅ うーがア あ0さー かーあア リーいイ いハー オイサカ サッサー オキサカ サイサイ
ミーソソ ラードレ ドーラド ラ0ソー ラーソミ ミーミソ ミー00 ソソソソ ラララー ソーラー ラー0
0オキカ コリヤコリヤ オキサカ サッサー さア
ドードー ララソミ ソラドレ ドー0 ドードー ラドラソ ソーラー ソ0ミミ

旧南部領の「なにやとやら」を母体とする。角館新明社の祭礼用に、三味線 笛 太鼓が入り、賑やかになるとともに、手踊りも入り華やかになった。

昭和36年の国体秋田大会で大勢の女子高生が踊った。肩に掛けたてぬぐいをパツとはねあげるのがかっこ良かった。

民謡 演歌 スコットランド民謡 フォルクローレ

7とシが無い四七抜き長音階レとソが無い四七抜き短音階レとラが無い二六抜き長音階シと7が無い二六抜き短音階

沖縄民謡

2 1 3 曲集には載っていません。

C C 2/4 ドンパン節
ソードラ レドラ ソソドラ ラー0 ソーラド レドラ ドレミレ ミー0
ドンドン パンパン ドンパン パン0 ドドパパ ドドパパ ドンパン パンあね
ソーソー ミミレド レレミレ ミー0 ソソドラ レドラ ララドラ ラ0レド
やーまさ えーぐが えがねが やー0 いまわら びーっコ さーかり だー0
レーミミ レドラ ドレミレ ミー0 ミーソソ ミミレド ミミレド ラー0
さかやの ほんとの えーとこ ろー0 ひとふく べっこを しょっかけ てー0
ソソラド レレミソ ミミレド ミー0 ソソドラ レドラ ラソドラ ラー0
ドンドン パンパン ドンパン パン0 ドンドン パンパン ドンパン パン0
ソーラド レドラ ドレミレ ミー0 ソーソー ミミレド レレミレ ミー0
ドドパパ ドドパパ ドンパン パン0
ソソドラ レドラ ララドラ ラ0レド

1 あね山さえぐがえがねがや 今ワラビッコ盛りだ 酒屋のほんとのええどころ ひとふくべっこをしょっかけて
2 自慢コゆうなら負けねえぞ 米コ本場で酒本場 あぎだのふぎなば日本いち 小野小町の出だどころ
3 唄っコ聞ぐならだまで聴げ 上手もあればへだもある おめえもここさ来てうだてみれ ながなが思うよにいがねもだ
4 朝まにおぎれば飲みたがる 戸棚の隅コさ手コ入れで あちこち見ながら笑い顔 茶碗で五六ペは知らぬ顔
5 唄コで夜明けた わが国は 天の岩戸のはじめより 尺八三味線笛太鼓 忘れちゃならない 国の唄
6 おらえの爺ッコは はげ頭 隣の爺ッコも はげ頭 はげとはげとが 喧嘩して どちらもけがねで えがったな

中仙町の宮大工「高橋市蔵」が作った「円満造甚句」が元唄。岩手県栗石町の民謡「どどさい節」を参考にしたという説もある。昭和10年頃、民謡編曲家の黒沢三三が大衆向きの編曲した。

同 唱 曲
(パートナーソング)

異なる曲を同時に歌ったら(スタントコーラスという)どうなるでしょうか。
意外とハマったり、逆に全くハマらなかったり。
このページには、同時に歌えそうな曲を集めてあります。
ただし、確かめてはいませんので、どうなるかは判っていません。

歌詞を入れ替えてもおもしろいと思います。

ゲームも少し載せてあります。 で囲んであるのがゲームです。

仲よし小道
あの子はだあれ
大黒様

ん勝ちしりとり
んで終わらせた人が勝ち

だるまん
命令ゲーム

赤上げて白上げて
命令ゲーム

1、2、パン、パン
自分の番号⇒他人の番号

全員じゃんけん
後出しじゃんけん(ポンポン)
負けるが勝ちじゃんけん
バンザイ負けましたじゃんけん
4種類をまとめて1つにします

八百屋さんのお店に並んだ
品物見てごらん。
良く見てごらん考えてごらん。
前の人が言ったものに一つ足す

	2/4	72	赤い鳥小鳥	あーかいとーりー ドードドドードー	こーとーりー レーミーレ	なーぜーなーぜー ソーミーソーミー	あーかーい レードーレ	あーかいみーをー ラーラドードー	たーべーた レーミード		
○	4/4	102	はと	ポッポッポ ドレーミー	はとポッポ ソミドレー	まーめがほしいか ドレーミソソミミ	そらやるぞ ソミドレミー	みんなでなかよく ソソソミララソ	たべにこい ミミミレド		
○	2/4	100	とんぼのめがね	とんぼのめがねは ドーミミレレドレ	みずいろめがね ミミソソラソソ	あーおいおそらを ドードラソソソ	とんだから ミミレドレ	とーんだーか ミソラーソ	ら ド		
	2/4	96	ウグイス	うーめこのえだで ドードレミミソ	ウグイスは ミミレドレ	はーるがきたよと ミーミレドドラド	うたいます レレミミレ	ホーホーホケキョ ドレーミラソ	ホーホケキョ ミーレド		
	2/4	116	静かな湖畔	しずかなこはんの ドドドレミミミ	もりのかげから レドレミドソ	もうおきちやいかかと ミミミソソソソ	カッコがなく ファミソミー	カッコーカッコー ソミーソミー	カッコーカッコー ソソソソソミー		
秋	4/4	72	夏は来ぬ	うーのはな ソーミソソ	におうかきねに ラドソレドラソ	ほーととぎ ラードラソソ	はやもきなきて ラレソソミドレ	しーのび ドミーソ	もうらあす ラソラドソ	つーうはき ドミレーレ	ぬ ド
	2/4	84	春よ来い	はーるよこい ミーミレミー	はーやくこい レーレドレ	あーるきはじめた ドドレドラララ	みいちゃんが ドドラソ	あーかいはなおの ラドソソソ	じょじょはいて ラソソミー	おんもへでたいと ソソドドミミレド	まっている レーレミド
	2/4	88	蛙の合唱	かーえー ドレーミー	うーたーが ミーレド	きーこーえー ミーファーソラー	くーるーよ ソファーミー	クワッ クワッ ド	クワッ クワッ ド	ケケケケケケケ ドドレレミミソソ	クワクワクワッ ミーレド
冬	2/4	80	どんぐりころころ	どんぐりコロコロ ソーミミソソ	どんぶりこ ソーミミレ	おいけにはまって ミミソソララー	さあたいへん ドミーソ	どじょうがでてきて ソソミミソソ	こんにちは ソーミミレ	ぼっちゃんいっしょ ソーミミラソソ	にあそびましょ ララシンド
春	2/4	88	焚き火	かきねのかきねの ソソソソソソ	まがりかど ドレミミレ	たきびだたきびだ ミソソソラドド	おちばたき ソソソソレド	あーたろうか レーミソソ	あたろうよ ミソソソ	きたかぜピープー ドドドラソソド	ふいている ミミレド
夏	4/4	116	春が来た	はーるがき ソーミソソ	はーるがき ソーミソソ	どーこーに ラーソミー	た レ	やーまにき ソーラソミー	さーとにき ドレードラド	のーにーも ソーミー	た ド
夏	2/4	126	たなばた様	さーさーの ソーソドレー	さーらさら ミーミミ	のーきーば ミーソソ	ゆーれーる ドミーレ	おーほし ミーミソ	キーラキラ レードドラ	きーんーぎ ドラーソ	すーな レーミド
冬	2/4	116	ゆりかごの歌	ゆーりかご ソーラソ	うーたを レーミレ	カーナリヤーが ラードラソ	うーたうよ ミーソレ	ねーんね ミーミレ	ねーんね ソーソ	ねーんね ミーソ	よ ド
春	4/4	100	春の小川	はーるのおがわは ミソソソソソ	さらさらいくよ ラソソソソソ	きーしのすみれや ミソソソソソ	れんげのはなに ラソソソソソ	すーがたやさしく レミレソソソ	いろうつくしく ドドシラソソ	さーけよさけよと ミソソソソソ	ささやきながら ラソソソソソ
夏	2/4	90	ちょうちょ	ちょうちょうちょう ソミミー	なのはにとまれ ドレミソソ	なのはにあいたら ソミミソソ	さくらにとまれ ドミソソ	さくらはなの レレレレレ	はなからはなへ ミミミミ	とまれよあそべ ソミミソ	あそべよとまれ ドミソソ
秋	2/4	65	夕焼け小焼け	ゆうやけこやけで ソソソソソ	ひがくれて ドドレミレ	やーまのおてらの ミーソソ	かねがなる ソソソソ	おーててつないで ドレドドラドソ	みなかえろ ラソソ	からすと ソミレドレ	にかえりましょ ミソソ
冬	4/4	96	一月一日	とーしのはじめの ソーラソ	ためしとて レレミレ	おーわりなきよの ソーラソ	めでたさを レレソ	まつたけ ドドドラ	かどごと ラソ	いおうきょうこそ ソーラソ	たのしけれ ミソ

兎と亀 浦島太郎 雪 歌の町 仲よし小道 あのこはだあれ 四季の唄 ああ人生に涙あり 赤い帽子白い帽子 金魚のひるね 黄金虫 花嫁人形 うさぎ	もしもしかめよ かめさんよ 昔昔浦島は 雪やこんこ 良い子が住んでる 仲よし小道は あのこはだあれ 春を愛する人は 人生楽ありや苦もあるさ 赤い帽子白い帽子 赤いべべ着た 黄金虫は 金襴緞子の うさぎうさぎ	かめさんよ 助けられた あられやこんこ 良い町は どこの道 だれでしょね 心清き人 なかよしさん かわいい金魚 金持ちだ 帯締めながら なにみてはねる	ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ
---	--	--	--

春が来た た抜き 代わり	結んで開いて て抜き	あんたがたどさ さ抜き	黒田節 の抜き	七つの子 か抜き
モシ亀 8421体操 肩たたき	結んで開いて ストレッチ体操 出来るだけ伸ばす	あねこもさ 柔軟体操 ゆっくり回す	どんぼん 骨太体操 足踏み	

旅愁 秋に寄せて 秋の夜半 小さな世界 しあわせのうた 紅葉 野菊 案山子 冬の星座 ほたる 荒城の月 黒田節 花かけ	更け行く 秋の夜 澄みゆくみ空に 秋の夜半の 世界中どこだって 東に住む人は幸せ 秋の夕日に 遠い国から 山田の中の 木枯らし途絶えて 蛍の宿は 春高樓の 酒は飲め飲め 十五夜お月さん	旅の空の 夕日は落ちて 近く来るよ どこだって 一本足の案山子 一本足の案山子 川端柳 花の宴 飲むならば ひとりぼち	ソソソド ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ ソソソソ
---	--	--	--